

指導の手引き 注意

注1: この手引は、教師が児童の前で発音してみせることを想定した、教師のための練習用です。児童に対してここに書かれたコツを全て説明する必要はありません。児童には、できるだけたくさん聞かせ、言わせることが大切です。

注2: 音節がひとつの語は、アクセントについて触れていません。

注3: この手引きでは apple や jam や cat などの a は「エア」と発音するように書いていますが、hair (ヘア 髪の毛) のように「エ」と「ア」を続けて発音するのではなく、「エ」を発音する口の形で「ア」と言うと近い音になります。

指導の手引き 1 食べ物①

rice ball	rice のほうをやや高く、強めに。	おにぎり
英語らしい音を出すコツ	r は、前にwを添えるつもりで口を尖らせて発音。 ball の l は舌先を上歯の裏に押しつけたまま発音。	
文法的な注意事項	複数なら rice balls になる。数えるときや好き嫌いを伝えるときには、I like rice balls. のように複数形を使う。	
文化的な情報、応用表現など	具は何が好き? What do you like in your rice balls?	

bread		パン
英語らしい音を出すコツ	b と r の間に u を入れないように練習するには red, red, red, bread と、リズムカルに続けて言う。red という前に唇を閉じるだけと考えてよい。	
文法的な注意事項	複数あっても bread という。 I like bread. と -s はつけないで使う。	
文化的な情報、応用表現など	写真のパンは rolls という。種類で呼び方を変えるときは、複数にすることが多い。丸いパンを buns (バンズ) と呼ぶこともある。クロワッサン (croissant) も rolls の仲間。	

noodle		めん
英語らしい音を出すコツ	語尾の -le は ball の l と同様、日本語の「る」のように舌を弾かずに、舌の先を上歯の裏に押しつけたまま、暗い「ウ」のような音で終わる。「ヌードウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	普通は複数形にしない。 I like noodle. でよい。 I like a noodle では「1本だけが好き」になる。	
文化的な情報、応用表現など	うどんは noodle, そばは buckwheat noodle という。ラーメンは最近では ramen のままで英語として使える。	

egg		卵
英語らしい音を出すコツ	e を少し長めに、g は息を破裂させずに止める。語尾の「ぐ」に力を入れない。	
文法的な注意事項	殻のままなら複数形になる。殻を割り料理の材料になったら複数形にはせず a もつけない。	
文化的な情報、応用表現など	生卵 (raw egg) は、嫌がって食べない外国人が多い。	

fish		魚
英語らしい音を出すコツ	下唇に歯をあてて f を発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞なので 1匹なら a fish だが、複数でも fish。How many fish do you see? 「魚は何匹いる?」 -s をつけた形を普通は使わない。	
文化的な情報、応用表現など	骨のない切り身は, fillet 「フィレ」。イギリス英語では語尾の t は発音しない。語源は「牛ヒレ」と同じでフランス語。「フィレオフィッシュ」は fillet of fish のこと。of と fish の f がつながって、of の f が fish の f と同化、「オフィッシュ」と聞こえる。	

sausage	語の最初にアクセント。	ソーセージ
英語らしい音を出すコツ	sau のところだけ長く、あとは短めに。「ソーシジ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞なので、1本なら a sausage だが複数には -s をつける。数えるときや好き嫌いを伝えるときには I like sausages. 数えるときには How many sausages do you see in the pan? 「フライパンにソーセージが何本見える?」	
文化的な情報、応用表現など	「ウインナー」では英語として通じない。Vienna sausage という。Vienna (ヴィエナ) はオーストリアの首都。なお、フランクフルトソーセージは Frankfurter (フランクファーター)。	

jam		ジャム
英語らしい音を出すコツ	「ジェラム」のように発音すると英語らしい。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。 I like strawberry jam. と、a や -s をつけないで使う。	
文化的な情報、応用表現など	bread and jam とは、ジャムを塗ったパン。and は軽く bread-n-jam のように言う。	

指導の手引き 1 食べ物②

omelet	語の最初にアクセント。	オムレツ
英語らしい音を出すコツ	最初の o は「ア」と言うつもりで口を開け「オ」と発音するとちょうどよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。a cheese omelet. 数えるときや好き嫌いを伝えるときには I don't like plain omelet.	
文化的な情報、応用表現など	plain omelet は具のついていないもので「プレイン」と発音。和風のだし巻き卵も、omelet と呼んでよい。	

curry and rice	curry と rice に同じアクセントを。	カレーライス
英語らしい音を出すコツ	curry は「カリ」。andは軽く「カリ・ン・ライス」のように発音する。	
文法的な注意事項	curry and rice でひとつの料理名、数えない名詞として扱う。Do you like curry and rice? 「カレーライスは好きですか？」	
文化的な情報、応用表現など	curry だけでも料理名として使う。I don't like Thai curry very much. It's too hot for me. 「タイカレーは私には辛すぎて、あまり好きではない」	

beefsteak	語の最初にアクセント。	ステーキ
英語らしい音を出すコツ	「ステーキ」ではなく「ステーキ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	steak はもともと牛などの半身の後ろ部分を厚切りにしたものを指す。Steak だけで beefsteak のことだとわかる。	

grilled fish		焼き魚
英語らしい音を出すコツ	grilled の ll と ed をひとかたまりのように発音し、grilled fish を 2 拍で言うとう英語らしくなる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の料理では、まるごと焼いた魚(いわゆる「尾頭付」)を食卓に出すことはあまりしない。	

spaghetti	「ゲ」にアクセント。	スパゲッティ
英語らしい音を出すコツ	最初の s は軽く添え、「sバゲティ」や「sバゲリ」のように言う。「ゲティ」よりも「ゲリ」と聞こえてよい。gheのあとに促音(っ)を入れないこと。	
文法的な注意事項	普通は複数形にしない。I like a spaghetti. では「1本だけが好き」になる。I like spaghetti. でよい。	
文化的な情報、応用表現など	語源はイタリア語の「ひも」。ナポリタンというメニューは日本での発明。	

sandwich	語の最初「セア」にアクセント。	サンドイッチ
英語らしい音を出すコツ	「サンド・イッチ」ではな「セアン-d-ウィッチ」のように、d を軽く、w はしっかり発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「ハムサンド」の「サンド」のように短くしては英語でなくなる。sand は「砂」の意味なので a ham sandwich が正しい。	

soup		スープ
英語らしい音を出すコツ	しっかり口を丸めて u: の音を発音すること。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語では soup は食べる(eat)もの。drink soup とは言わない。	

salad	語の最初「セア」にアクセント。	サラダ
英語らしい音を出すコツ	「セアラd」と発音する。語尾の d は上の歯の裏に舌尖をつけて止めると「ダ」にならない。	
文法的な注意事項	数えられない名詞として扱う。I like salad very much. 「サラダ大好き」 I eat salad every day. 「毎日サラダを食べる」	
文化的な情報、応用表現など	料理名としては数えられる名詞。I'd like a green salad. (レストランでの注文)。料理に添えた生野菜を指す場合には、数えられない名詞として扱う。Do you want more salad? 「サラダ、もっといる？」	

指導の手引き 1 食べ物③

cake		ケーキ
英語らしい音を出すコツ	「ケーキ」でなく、むしろ「ケイク」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日本でショートケーキと呼ぶものは、sponge cake と呼ぶのがよさそう。元来 shortcake の short とは「サクサクした」という意味であり、ビスケットのように焼いた生地にフルーツやクリームをのせたものを指す。	

chocolate	語の最初の cho-にアクセント。	チョコレート
英語らしい音を出すコツ	最初の choc-は「チャ」と言うつもりで口を開け「チョ」と発音するとちょうどよい。また、語尾の late は「レイト」でなく「リト」なので、「着火率」のように聞こえるようなら英語らしくなる。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語で hot chocolate と呼ぶのは、飲み物のココアのこと。	

pudding		プリン
英語らしい音を出すコツ	語尾の ing は鼻へ抜ける音。舌の先を歯茎から離して「ン(グ)」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日本人が「プリン」でイメージするのは custard pudding であり、英米人が普通 pudding と呼ぶ、焼いたり蒸したりする料理とは異なる。	

ice cream	最初の ice の方を強めに。	アイスクリーム
英語らしい音を出すコツ	最後の m は mu「ム」にならないよう、口を閉じるだけでよい。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	アイスクリームをのせるコーンは、cone (円錐) である。「コウン」と口を丸めて発音する。トウモロコシの corn ではない。	

pie		パイ
英語らしい音を出すコツ	「パーイ」と伸ばして発音すると英語らしくなる。	
文法的な注意事項	丸ごとなら数えられる名詞だが、好き嫌いを伝えるときには、数えない名詞として使うのが普通。My brother likes potato pie. 「私の兄弟はじゃが芋のパイが好きです」	
文化的な情報、応用表現など	フルーツなどを上にのせて焼いたものは、イギリスでは tart と呼んで区別する。	

parfait	fait のところにアクセント。	パフェ
英語らしい音を出すコツ	語尾の t は発音せず、「パーフェイ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	フランス語から。	

dessert	sert のところにアクセント。	デザート
英語らしい音を出すコツ	語の最初の de はアクセントがないので「ディ」と「デ」の中間の曖昧な発音でよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	食後の甘いもの、果物もアイスクリームも、すべて desserts である。	

shaved ice		かき氷
英語らしい音を出すコツ	shavedはvとdをつなげて発音。-edのあとで切らずにiceへ続けて、シェイ-v-ダイスのように発音。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	shave は「薄く削る」。shaved は過去分詞で「薄く削られた」の意味。鯉節を削るときやひげ剃りと同じ動詞。	

指導の手引き 1 食べ物④

pizza		ピザ
英語らしい音を出すコツ	「ピザ」よりも「ピッツァ」。	
文法的な注意事項	pie と同様、丸ごとなら数えられる名詞だが、好き嫌いを伝えるときには数えない名詞として使うのが普通。	
文化的な情報、応用表現など	もともとはイタリア語。I want to order pizza. 「ピザの出前を頼みたい」	

hamburger	語の最初にアクセント。	ハンバーガー
英語らしい音を出すコツ	最初の ham- は「ヘム」。真ん中の「バー」は、口をあまり広く開けずに「ヘムブウアーガ」のように発音する。最後の「ガ」はアクセントがないので「グア」と聞こえるような曖昧な音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	元来はドイツの都市 Hamburg の形容詞 Humburger から来ているので、ハンバーグという料理の英語名は a Hamburger steak が正しい。ハンバーグをはさんだサンドイッチがアメリカで広まり hamburger というようになった。	

fried chicken	fried の方を強めに。	フライドチキン
英語らしい音を出すコツ	「チキン」というより「チェケン」。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	a fried chicken と言うと、ニワトリ一羽を丸ごと揚げたもののように聞こえてしまう。	

snack		スナック
英語らしい音を出すコツ	s は軽く添え「sネック」のように。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。I want to eat snacks. 「スナックを食べたい」	
文化的な情報、応用表現など	正規の食事でない、小腹を満たす間食の意味。写真のような菓子類だけでなく、フライドポテトやサンドイッチなどの軽食をイメージに含んでよい。	

popcorn	pop を強く。	ポップコーン
英語らしい音を出すコツ	最初の po- は「パ」と言うつもりで口を開け「ポ」と発音するとちょうどよい。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	一粒ずつ数えない。I like popcorn with coke. 「ポップコーンをコーラを飲みながら食べるのが好き」	

French fries	Fre-と friesの両方を同じくらいの強さのアクセントで。	フライドポテト
英語らしい音を出すコツ	f をきちんと下唇に歯を当てて発音すれば、次の r の音が出しやすい。flies と言えば、ハエのことになる。	
文法的な注意事項	常に複数形。a French fry とは言わない。	
文化的な情報、応用表現など	French fries はアメリカ英語。イギリスではフライドポテトを chips と呼び、ポテトチップは crisps と呼ぶ。オーストラリアとニュージーランドではフライドポテトを hot chips、ポテトチップを chips と呼んで区別する。	

指導の手引き 2 飲み物

coffee		コーヒー
英語らしい音を出すコツ	最初のcoは「カ」と言うつもりで口を開け「コ」と発音するとちょうどよい。fの音をしっかり出す。	
文法的な注意事項	液状のものは数えない。	
文化的な情報、応用表現など		

green tea	green の方を強く。	緑茶
英語らしい音を出すコツ	tの音は、息を強めに吐き出す。	
文法的な注意事項	液状のものは数えない。	
文化的な情報、応用表現など		

tea		紅茶
英語らしい音を出すコツ	tの音は、息を強めに吐き出す。	
文法的な注意事項	液状のものは数えない。	
文化的な情報、応用表現など	紅茶をblack tea と呼ぶこともある。	

mineral water	最初の mi-を強く。	ミネラルウォーター
英語らしい音を出すコツ	「ミヌルル」のように発音。アメリカ英語では「water」を「ワーラ」のように発音する人もいるが、必ずしもまねしなくてよい。	
文法的な注意事項	液状のものは数えない。	
文化的な情報、応用表現など		

soda pop	sodaの方をやや強く。	ソーダ
英語らしい音を出すコツ	唇を丸めて「ソウダ」と発音する。popのpoは「パ」と言うつもりで口を開け「ポ」と発音するとちょうどよい。	
文法的な注意事項	液状のものは数えない。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカでは炭酸入りの甘いノンアルコール飲料のこと。他の英語圏で soda と言えば、酒類を割る味をつけない炭酸水 carbonated water のこと。	

juice		ジュース
英語らしい音を出すコツ	最初の j に力を込めて。	
文法的な注意事項	液状のものは数えない。	
文化的な情報、応用表現など	果汁100%のものを juice と呼ぶ。	

milk		ミルク
英語らしい音を出すコツ	lの発音は日本語の「る」のように舌先を弾かず、上の歯裏に当てて「ウ」のような暗い音を出す。「ミウク」に聞こえる。	
文法的な注意事項	液状のものは数えない。	
文化的な情報、応用表現など		

指導の手引き 3 フルーツ&野菜①

apple		りんご
英語らしい音を出すコツ	「ア」よりも「エァ」。この「ウ」に聞こえる暗い「ウ」。「エァポウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など		

banana	中央の na にアクセント。	バナナ
英語らしい音を出すコツ	最初の ba は軽く、真ん中の na は「ネァー」のように、強く長く。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など		

orange	最初の o にアクセント。伸ばして発音する。	オレンジ
英語らしい音を出すコツ	最初の o は「アー」と言うつもりで口を開け「オー」と発音するとちょうどよい。真ん中の a は「レ」よりも「リ」。「オーリンジ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など	日本のミカンは tangerine 「テァンジャリーン」、語頭にアクセントがある。	

peach		もも
英語らしい音を出すコツ	語頭の p は呼気をはっきり強めに出すと英語らしさが出る。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など		

strawberry	raw のところにアクセント。	いちご
英語らしい音を出すコツ	最初の str は「すとり」にならないよう注意。最初の str がひとかたまりにくっついているように発音する。練習は次のように：① rawberry, rawberry, trawberry とリズムカルに、raw にアクセントを置き同じ拍で繰り返す。「とり」よりも「ちゅろ」に近い音で。② trawberry, trawberry, strawberry とリズムカルに同じ拍で繰り返す。s は軽く添えるだけ。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには strawberries と複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など		

pineapple	最初の pi のところにアクセント。	パイナップル
英語らしい音を出すコツ	apple の語尾の -le と同じで、l の音は舌先を上歯の裏に押し当てて「ウ」のような暗い音を出す。「パイナポウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、好き嫌いを伝えるときには数えられない名詞として、a をつけず複数形にもせず使う。I like pineapple.	
文化的な情報、応用表現など	pine は松のこと。形がマツカサに似ているということで pine と apple をつなげた英語名がつけられた。I like pineapples. と言うと丸ごといくつも食べるような意味になってしまう。	

grapes		ぶどう
英語らしい音を出すコツ	語尾の ps の音をひとかたまりのように発音する。	
文法的な注意事項	一粒ずつ話題にすることはあまりないので、通常、複数形で用いると考えてよい。写真にも複数形をつづりを添えてある。	
文化的な情報、応用表現など		

指導の手引き 3 フルーツ&野菜②

cherry		さくらんぼ
英語らしい音を出すコツ	rの音は、舌の先が上の歯茎にあたらないように注意する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。写真はひとつなので、つづりは単数で示した。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にして cherries とつづる。	
文化的な情報、応用表現など	サクラの木も花も cherry なので、区別するために木は cherry tree, 花は cherry blossoms と呼ぶのが普通。	

lemon		レモン
英語らしい音を出すコツ	lの発音は舌先を上歯裏に当てる。語頭は暗い音でない。後ろの -on はアクセントがないので、「レマン」「レムン」「レモン」のどれにも聞こえるような曖昧な音でよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など	lemon は、日本語では爽やかさの象徴のようなイメージがあるが、英語には、レモンの皮のようにこぼこなもの、酸っぱいレモンのように顔をしかめさせる厄介なものという、あまりよくないイメージがある。	

watermelon	wa にアクセントがある。	すいか
英語らしい音を出すコツ	「ワータメロン」のように発音する。アメリカ英語では「water」を「ワーラ」のように発音する人もいるが、必ずしもまねなくてよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、好き嫌いを伝えるときには数えられない名詞として、a をつけず複数形にもせず使う。I like watermelon.	
文化的な情報、応用表現など	欧米の人たちには丸いスイカよりもラグビーボールのような楕円形がなじみ深い。I like watermelons. と言うと、一度にいくつも丸ごと食べるような意味になってしまう。	

melon		メロン
英語らしい音を出すコツ	lの発音は舌先を上歯裏に当てる。語尾でないので暗い音ではない。後ろの -lon はアクセントがないので、「メラン」「メルン」「メロン」のどれにも聞こえるような曖昧な音でよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、好き嫌いを伝えるときには数えられない名詞として、a をつけず複数形にもせず使う。I like melon.	
文化的な情報、応用表現など	I like melons. と言うと一度にいくつも丸ごと食べるような意味になる。	

kiwi fruit	最初の ki にアクセントがある。	キウイフルーツ
英語らしい音を出すコツ	語尾が「ツ」にならないよう注意する。tの音で息を止めて終わる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など	kiwifruit と一語に綴ることもある。kiwi だけでこのフルーツを指すことがあるが、ニュージーランド人は認めない。もともと、kiwi は鳥の名前であり、また、その鳥にちなんでニュージーランド人のニックネームである。ある輸出業者が思いついてこのフルーツを kiwifruit と名付けたのは、20世紀中頃のことだった。	

nuts		ナッツ
英語らしい音を出すコツ	uでつづる「ア」の音は、口の中央で軽く発音する。日本語の「あ」に近い音。	
文法的な注意事項	一粒ずつ話題にすることはあまりないので、通常は複数形で用いると考えてよい。写真にも複数形でつづりを添えてある。	
文化的な情報、応用表現など	一般的に木の実全般をこう呼ぶ。さまざまな種類がある。	

指導の手引き 3 フルーツ&野菜③

lettuce	最初の le- にアクセント。	レタス
英語らしい音を出すコツ	アクセントのない u は軽い「ア」にも「ウ」にも聞こえる曖昧な音。	
文法的な注意事項	まるごとなら数えられる名詞。食材として好き嫌いを伝えるときなどには、数えない名詞として使うのが普通。My brother likes lettuce.	
文化的な情報、応用表現など	ベアトリクス・ポターの『Peter Rabbit』の物語では、うさぎのピーターがマクレガーさんの畑で、いくつものレタスを食べた (he ate some lettuces) という記述がある。	

mushroom	mush- にアクセント。	きのこ
英語らしい音を出すコツ	u でつづる「ア」の音は、口の中央で軽く発音する。日本語の「あ」に近い音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など	日本ではマッシュルームという特定の種類を指すが、あらゆる種類のキノコが mushrooms である。シイタケは shiitake mushrooms と言えば理解される。	

onion	最初の o にアクセント。	たまねぎ
英語らしい音を出すコツ	最初の o は「ア」の口の形のまま「オ」と発音する。「オニオン」より「アニアン」と聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、好き嫌いを伝えるときには数えない名詞のように使う。	
文化的な情報、応用表現など	食べるときには丸ごといくつも食べることはないだろう。料理の材料に入っているものは、a もつけず複数形にもしない。	

cabbage	最初の ca- にアクセント。	キャベツ
英語らしい音を出すコツ	「キャベジ」ではなく「ケアビジ」。語尾は舌先を歯の裏につけて「ジ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、好き嫌いを伝えるときには数えない名詞のように使う。	
文化的な情報、応用表現など	食べるときには丸ごといくつも食べることはないだろう。料理の材料に入っているものは、a もつけず複数形にもしない。	

carrot	最初の ca- にアクセント。	にんじん
英語らしい音を出すコツ	「キャロット」ではなく「ケアロト」。語尾は舌先を歯の裏につけて t で呼気を止める。複数形は「ケアロツ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカの子どものお弁当に、ニンジンが丸ごと1本入っているのは自然なこと。生で丸かじりする。	

corn		とうもろこし、コーン
英語らしい音を出すコツ	「コーン」とただ伸ばす音だけでも理解されるが、アメリカ英語では or は「オー」の後半で舌を巻き気味にする。また、語尾の n は、上の歯の裏に舌先をしっかりつけて発音する。	
文法的な注意事項	通常、corn には a をつけたり corns と複数形になることはない。rice に粒がいくつあるか気にしないのと同様。	
文化的な情報、応用表現など	corn はアメリカではトウモロコシ、イギリスでは製粉するための穀類全般を指す。イギリス英語ではトウモロコシを意味する maize (メイズ) という語がある。	

指導の手引き 3 フルーツ&野菜④

cucumber	最初の cu- にアクセント。	きゅうり
英語らしい音を出すコツ	二つ目の cu は軽い「ア」。「キューカムファ」のように、語尾の ber は曖昧に発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など	寿司の「カッパ巻き」は a cucumber sushi roll と言えばよい。sushi roll は「のり巻き」のこと。	

tomato	ma- にアクセント。	トマト
英語らしい音を出すコツ	アメリカ英語では「タメイトウ」と発音する。語頭の「タ」はアクセントがないので、口をあまり開けない曖昧な音でよい。イギリス、オーストラリア、ニュージーランドでは「タマアトウ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。複数形は tomatoes と、-es を添える。	
文化的な情報、応用表現など		

broccoli	bro- の o にアクセント。「ア」の口の形のまま「オ」。	ブロッコリー
英語らしい音を出すコツ	「ア」の口の形のまま「オ」。語頭の b と r はつなげて発音する。loccoli, loccoli, loccoli, broccoli とリズムカルに練習するとよい。	
文法的な注意事項	丸ごとなら数えられる名詞。食材として好き嫌いを伝えるときなどには、数えない名詞として使うのが普通。My sister don't like broccoli.	
文化的な情報、応用表現など		

potato	真ん中の ta にアクセント。	じゃがいも
英語らしい音を出すコツ	「ポテイトウ」と発音する。語頭の「ポ」はアクセントがないので、口をあまり開けない曖昧な音でよい。	
文法的な注意事項	複数形は potatoes と、-es を添える。	
文化的な情報、応用表現など	サツマイモは sweet potatoes.	

green pepper	pep を強く。	ピーマン
英語らしい音を出すコツ	「ペッパー」ではなく「ペパ」。	
文法的な注意事項	bell pepper または capsicum と呼ぶ。	
文化的な情報、応用表現など	green pepper も paprika も、同じ種類の野菜。	

radish	最初の ra にアクセント。	はつかだいこん、ラディッシュ
英語らしい音を出すコツ	ra- は「レ」というつもりの口の形のまま「ラ」と言う。この語は r で始まるので、舌先は歯につけず、唇を突き出すようにしてから ra- と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。数えるときや好き嫌いを伝えるときには複数形にする。	
文化的な情報、応用表現など	日本のダイコンのように白くて長いもの、また、赤くて短いものもある。	

指導の手引き 4 数①～④

one		1
英語らしい音を出すコツ	日本人の多くが最後の n の音を舌先を離れた状態で発音するが、しっかりと上の歯茎に押しつけて「ワンヌ」と言うぐらいのつもりで、n を長く発音するとコツがつかめる。	
文化的な情報、応用表現など	「本が 1 冊」のような言い方は英語にはなく、one book, two books のように、名詞の前に数詞を置く言い方が普通。慣れる必要がある。	
two		2
英語らしい音を出すコツ	舌先を上歯茎につけて t の音を出す。「ツー」にならないように注意する。	
three		3
英語らしい音を出すコツ	舌先を上下の歯の間に軽く挟み th を発音する。	
four		4
英語らしい音を出すコツ	上の歯を下唇に当てて f を発音する。	
five		5
英語らしい音を出すコツ	上の歯を下唇に当てて f と v を発音する。	
six		6
英語らしい音を出すコツ	「シ」でなく「スイ」になるよう注意。	
seven	最初の se- にアクセント。	7
英語らしい音を出すコツ	下唇に歯を当て、v の音を b にしないようにしっかりと出す。v と n はつなげて。語尾の n は one と同じように、しっかりと。	
eight		8
英語らしい音を出すコツ	語尾の t の発音は carrot の t と同じで、舌先を歯の裏に当てて、そこで止める。	
nine		9
英語らしい音を出すコツ	語尾の ne の発音は one と同じ。上の歯の裏に舌をつけて「ン」のまま伸ばすように発音する。	
ten		10
英語らしい音を出すコツ	語尾の n の発音は one と同じ。上の歯の裏に舌をつけて「ン」のまま伸ばすように練習するとよい。	
eleven	-lev- にアクセント。	11
英語らしい音を出すコツ	下唇に歯を当て、v の音を b にしないようにしっかりと出す。v と n はつなげて。語尾の vn は seven と同じ音。	
文化的な情報、応用表現など	あのコンビニエンスストアチェーンの名前は、vn の音が韻を踏むので語呂が良いことも命名の理由と言われる。	
twelve		12
英語らしい音を出すコツ	真ん中の l は「ウ」に近い音。日本語の「る」のように舌を弾かずに、上の歯の裏に押しつけて発音する。この l と v はつなげて発音する。	
thirteen	teen にアクセント。	13
英語らしい音を出すコツ	最初の th- は舌の先を上下の歯で挟んで発音する。ir は口を広げず両唇の間から出す「ウー」にも「アー」にも聞こえる曖昧な音。語尾の n を、舌先を上歯の裏に押しつけて長めに発音すれば、thirty と混同されない。	
fourteen	teen にアクセント。	14
英語らしい音を出すコツ	最初の f を、下唇に上の歯を当てて出す。語尾の n を、舌先を上歯の裏に押しつけて長めに発音すれば、forty と混同されない。	
fifteen	teen にアクセント。	15
英語らしい音を出すコツ	2 つの f の音を、下唇に上の歯を当てて出すこと。語尾の n を、舌先を上歯の裏に押しつけて長めに発音すれば、fifty と混同されない。	

sixteen	teen にアクセント。	16
英語らしい音を出すコツ	「シ」でなく「スイ」になるよう注意。語尾の n を、舌先を上歯の裏に押しつけて発音すれば、sixty と混同されない。	
seventeen	teen にアクセント。	17
英語らしい音を出すコツ	下唇に歯を当て、v の音を b にしないようにしっかりと出す。v と n はつなげて。語尾の n を、舌先を上歯の裏に押しつけて発音すれば、seventy と混同されない。	
eighteen	teen にアクセント。	18
英語らしい音を出すコツ	語尾の n を、舌先を上歯の裏にしっかりとつけて発音すれば、eighty と混同されない。	
nineteen	teen にアクセント。	19
英語らしい音を出すコツ	語尾の n を、舌先を上歯の裏にしっかりとつけて発音すれば、ninety と混同されない。	
twenty	e にアクセント。	20
英語らしい音を出すコツ	「トエンティ」でなく「トゥエンティ」と発音。語尾の y は軽く発音する。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ人の中には「トウエニィ」と発音する人もいるが、その発音でなければアメリカ人に理解されないわけではない。この語尾の ty の t は軽く発音すればよい。	
thirty	ir にアクセント。	30
英語らしい音を出すコツ	最初の th- は舌の先を上歯と下歯の間に挟んで発音する。ir は、thirteen と同様、口を広げず両唇の間から出す「ウー」にも「アー」にも聞こえる曖昧な音。語尾の y は軽く発音する。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ人の中には「サーリィ」と発音する人もいるが、その発音でなければアメリカ人に理解されないわけではない。この語尾の ty の t は軽く発音すればよい。	
forty	or にアクセント。	40
英語らしい音を出すコツ	最初の f を、下唇に上歯を当てて出す。語尾の y は軽く発音する。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ人の中には「フォーリィ」と発音する人もいるが、その発音でなければアメリカ人に理解されない訳ではない。この語尾の ty の t は軽く発音すればよい。	
fifty	i にアクセント。	50
英語らしい音を出すコツ	2つの f の音を、下唇に上歯を当てて出すこと。語尾の y は軽く発音する。	
sixty	i にアクセント。	60
英語らしい音を出すコツ	「シ」でなく「スイ」になるよう注意。語尾の y は軽く発音する。	
seventy	最初の se にアクセント。	70
英語らしい音を出すコツ	下唇に歯を当て、v の音を b にしないようにしっかりと出す。v と n はつなげて。語尾の t は軽く発音する。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ人の中には「セヴニィ」と発音する人もいるが、その発音でなければアメリカ人に理解されないわけではない。この語尾の ty の t は軽く発音すればよい。	
eighty	ei にアクセント。	80
英語らしい音を出すコツ	語尾の t は軽く発音する。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ人の中には「エイリィ」と発音する人もいるが、その発音でなければアメリカ人に理解されないわけではない。この語尾の ty の t は軽く発音すればよい。	
ninety	i にアクセント。	90
英語らしい音を出すコツ	語尾の t は軽く発音する。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ人の中には「ナイニィ」と発音する人もいるが、その発音でなければアメリカ人に理解されないわけではない。この語尾の ty の t は軽く発音すればよい。	
hundred	u にアクセント。	100
英語らしい音を出すコツ	u でつづる「ア」の音は、口の中央で軽く発音する。日本語の「あ」に近い音。	
文法的な注意事項	100 は one hundred、200 は two hundred。two がついても hundreds にならない。	
zero	e にアクセント。	0
英語らしい音を出すコツ	「ズィーロウ」または「ズィアロウ」。	

指導の手引き 5 教科①②

arts and crafts	artsとcraftsの両方にアクセント。	図画工作（図工）
英語らしい音を出すコツ	and は軽く、「アーツ・ン・クラフツ」のように発音する。	
文化的な情報、応用表現など	絵を描くこと自体は drawing（ペン画、クレヨン画、鉛筆画）や painting（水彩画、油絵）である。	

calligraphy	2番目の i にアクセント。	書写（書道）
英語らしい音を出すコツ	ph は f の音。	
文化的な情報、応用表現など	日本、中国、韓国など、東アジアの calligraphy は、筆（brush）と墨を使う点が共通する。墨は India ink または Indian ink, または Chinese ink と呼ぶ。欧米の言語やアラビア語でもペンによる calligraphy がある。	

English	最初の E にアクセント。	英語
英語らしい音を出すコツ	I の音は上の歯の裏に舌先をしっかりと押し当てているか、確認する。	

home economics	最初の home と、まん中の no の 2 か所にアクセント。	家庭科
英語らしい音を出すコツ	「ホーム」でなく「ホウム」。Home の m と economics がつながって「ホーミカノミクス」と聞こえるときもある。真ん中の no は、「ナ」を言うときの口の形で「ノ」を発音する。eco はアクセントをおかず軽めに、「イカナーミクス」と言うぐらいのつもりで。	
文法的な注意事項	economics とは「経済」のこと。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏では家庭科は置かない国もあり、置いても選択科目だったりする。homemaking（家庭の運営を行うこと）や family studies という言い方もすることがある。	

Japanese	後ろの -ese にアクセント。	国語
-----------------	------------------	-----------

math		算数（数学）
英語らしい音を出すコツ	math の a は、apple の a と同じで「エ」の口の形をして「ア」と言う。th は舌の先を上下の歯で挟んで発音する。	
文法的な注意事項	mathematics の略語。（強いアクセントは後の ma）	
文化的な情報、応用表現など	小学校科目の算数も、中学校高校の数学も、英語では mathematics である。Arithmetic 「計算、算術」は、加減乗除だけを指す語。図形なども含む小学校の「算数」は mathematics (math) と呼ぶのがふさわしい。	

music		音楽
英語らしい音を出すコツ	「ミュージック」ではなく「ミュージク」。	
文化的な情報、応用表現など	楽器は musical instrument。	

moral education	mo と ca の 2 か所にアクセント。	道徳
英語らしい音を出すコツ	moral の r と l の区別をする。r は舌先が歯に触れないが l は上の歯の裏について「ウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	education は「教育」。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏にこの科目はない。citizenship 「市民教育」という科目に近い。	

P. E.	P にも E にもアクセント。	体育
文法的な注意事項	Physical education という英語の頭文字を取った略称。	
文化的な情報、応用表現など	日本語の「体育」はこれを直訳したもの。	

science	最初の i にアクセント。	理科
英語らしい音を出すコツ	e にはアクセントがないので、口をあまり開けずに発音。	
文化的な情報、応用表現など	science は「科学」とも訳す。小・中・高の科目としての「理科」も science である。	

social studies	両方にアクセント。	社会
英語らしい音を出すコツ	「ソーシャル」ではなく「ソウシャル」。	
文法的な注意事項	social は形容詞。元の名詞は society。	
文化的な情報、応用表現など	小学校の教科では social studies の中に歴史や地理も含むが、それぞれ history, geography である。	

指導の手引き 6 学校①②

classroom	classにアクセント。	教室
英語らしい音を出すコツ	lの音は上の歯の裏に舌先を押し当てる。この a は「エ」の口の形で「ア」。	
文法的な注意事項	classroom で1語。2語に綴らない。	
文化的な情報、応用表現など	class は一緒に授業を受けるグループの児童・生徒たちのことだけでなく、授業そのものも指す。Let's read this book at next class. 「次の授業でこの本を読みましょう」。イギリス、オーストラリア、ニュージーランドでは「クラス」と発音する。	
computer room	pu にアクセント。	パソコン室、コンピュータ室
英語らしい音を出すコツ	「コ」の口の形のまま「カ」と言うような音。-room は l (エル) の発音にならないよう、舌の先が歯に触れないことを確かめる。	
cooking room	cookにアクセント。	調理室
英語らしい音を出すコツ	oo の音は、唇をしっかりと突き出して。room の rは、舌が歯に触れないように。	
文化的な情報、応用表現など	学校によっては家庭科室と呼ぶ教室でも、そこに調理実習の設備があるなら、cooking room と呼んでよい。また、給食の調理室を指すこともできる。	
entrance	en にアクセント。	玄関、昇降口
英語らしい音を出すコツ	t と rの間をつなげて、「チュラ」に近い音でもよい。	
文法的な注意事項	動詞の enter から来ている語。「入り口」。	
文化的な情報、応用表現など	職員用もentranceだが、teachers' entrance、児童の昇降口は students' entrance と呼んでもよい。	
gym		体育館
英語らしい音を出すコツ	mの音は、両唇を閉じてしっかりと出す。	
文法的な注意事項	gymnasium 「ジムネイジアム」を略した語。	
library	最初の i にアクセント。	図書館 (図書室)
英語らしい音を出すコツ	最初の l と真ん中の r を区別して発音する。	
文化的な情報、応用表現など	学校の図書室も、町の図書館も library である。学校のを区別するなら school library と呼んでよい。	
playground	play-にアクセント。	校庭
英語らしい音を出すコツ	play の l は舌先が上の歯の裏につくように。しかし ground の rは、舌先が歯に触れないように。	
文法的な注意事項	1語につづる。	
文化的な情報、応用表現など	文字通り「遊び場」なので、幼稚園や小学校ではこれでよいが、中学校・高校の校庭は school yard と呼ぶ。	
rest room	rest にアクセント。	トイレ
英語らしい音を出すコツ	r は舌が歯に触れないように。	
文法的な注意事項	rest は「休憩、休息」。	
文化的な情報、応用表現など	家庭のトイレは bathroom と呼ぶことが多い。トイレと風呂場が一緒になっている構造が一般的だからである。	
principal's office	prin-にアクセント。	校長室
英語らしい音を出すコツ	r は舌が歯に触れないように。l (エル) は舌先が上の歯の裏につくように。principal の pal はアクセントがない a なので、あまり口を開けずに発音すればよい。officeの o は「ア」の口で「オ」。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の校長室のドアには、Principal とだけ書いてあることが多い。	
school nurse's office	schoolの方が強めのアクセント。	保健室
英語らしい音を出すコツ	nurse の ur は両唇の間を狭めて、「ウー」「アー」「エー」のどれにも聞こえるような、あいまいな発音をする。	
文化的な情報、応用表現など	養護教諭は看護師ではないが、英語圏に養護教諭の制度がない。school nurse という職が最も近いため、ここでは使っている。	

指導の手引き sheet_number 7 文ぼう具①

crayon	ray にアクセント。	クレヨン
英語らしい音を出すコツ	r は舌が歯に触れないように。「クレヨン」ではなく「クレイヤン」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。Do you have a red crayon? 「赤いクレヨン持っている?」	
文化的な情報、応用表現など	クレパスは商品名（登録商標）。	

eraser	ra- にアクセント。	消しゴム
英語らしい音を出すコツ	r は舌が歯に触れないように。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。eraser は「消す」。erase + er 「消すもの」。	
文化的な情報、応用表現など	⇒ calligraphy (5 教科①) 参照。	

glue stick	glue にアクセント。	スティックのり
英語らしい音を出すコツ	ue は、唇をしっかりと突き出すこと。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。stick は「棒状のもの」	
文化的な情報、応用表現など	glue だけでも「糊」。	

ink	最初の i にアクセント。	インク
英語らしい音を出すコツ	「ン」が強くなるように。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

marker		サインペン、マーカー
英語らしい音を出すコツ	「マーカ」でよい。最後の「カ」はアクセントがないので「クァ」と聞こえるような曖昧な音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。mark 「印を付ける」から。mark + er 「印を付けるもの」。	
文化的な情報、応用表現など	サインペンは商品名（登録商標）。蛍光ペンは highlighter 「ハイライタ」と呼ぶ。highlight は high + light で、「目立たせる」の意味。	

notebook	note にアクセント。	ノート
英語らしい音を出すコツ	「ノー」でなく、「ノウ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	note だけでは意味が違う。メモや短い手紙のこと。	

pen		ペン
英語らしい音を出すコツ	語尾の n の発音は one や ten と同じ。上の歯の裏に舌をつけて「ン」のまま伸ばし、粘るように発音するとよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

pencil	pen- にアクセント。	えんぴつ
英語らしい音を出すコツ	最後の l は舌先を弾くのではなく「ペンスウ」のように、舌を上歯の裏につけて、暗い感じの「ウ」に近い音を出す。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	シャープペンシル、いわゆるシャーペンは、propelling pencil または mechanical pencil と言う。動詞 propel は「前進させる」の意味。昔の飛行機についていたのが propeller (プロペラ)。	

指導の手引き sheet_number 7 文ぼう具②

pencil case	pen- にアクセント。	ペンケース、筆箱
英語らしい音を出すコツ	「ケース」でなく「ケイス」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

pencil sharpener	pen- と shar- にアクセント。	えんぴつ削り
英語らしい音を出すコツ	sharpener の p と n はつなげて発音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	sharp は形容詞「鋭い」。Sharp + en で動詞「とがらせる」⇒ sharpen + er 「鋭くするもの」	

ruler	ru- にアクセント。	定規、ものさし
英語らしい音を出すコツ	r は舌が歯に触れないように。l は舌先が上の歯の裏に付くように。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	rule は動詞。「まっすぐにする、糺す」。転じて「定規」になった。	

stapler	ta- にアクセント。	ホッチキス
英語らしい音を出すコツ	s と t をつなげて発音する。練習は tapler, tapler, tapler, stapler と、リズムカルに3回言ってそのまま stapler と続けるとよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	ホッチキスは、この道具を最初に製造した会社の名 (E. H. Hotchkiss) だとのこと。	

scissors	最初の i にアクセント。	はさみ
英語らしい音を出すコツ	「スイザズ」と発音。「ザ」はアメリカ英語では舌の丸めを伴う、「ザ」と「ズ」の間のような、曖昧な音として発音する。これは真似できなくても良い。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。しかし常に複数形。-s を付けて使う。正確には These are my scissors. 「これは私のはさみです。」 Those are your scissors. 「あれがあなたのはさみです。」	
文化的な情報、応用表現など	児童にとっては、複数形だと意識して使いこなすことは難しいが、教員は児童に英語らしい英語を聞かせる努力をするとよい。	

指導の手引き sheet_number 8 学校行事①②

entrance ceremony	どちらの語も最初にアクセント。	入学式
英語らしい音を出すコツ	entrance は、t と r の間をつなげて、「チュラ」のように使ってもよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	入学式は小学校時代に一度しかないの、普通は the を付け、the entrance ceremony と言う。	

field trip	field にアクセント。	遠足、野外実習
英語らしい音を出すコツ	field の l と d は舌の位置が同じ。l は日本語の「る」のように弾かない。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	遠足は年に2回はあるだろうから、普通、これから行く場合は a field trip と言うが、済んだ遠足を話題にしているときは the field trip と呼ぶ。	

school trip	school にアクセント。	修学旅行
英語らしい音を出すコツ	oo の音は、唇をしっかりと突き出して「ウー」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	修学旅行は、小学校なら一度しかないの、the を付けて言うのが普通。	

swimming meet	どちらの語にもアクセント。	水泳大会
英語らしい音を出すコツ	日本語の「スイミング」にならないよう、sのあとの w は、しっかりと唇を突き出す。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	年中行事で年に一度だと考えて、the を付けて言う。	

sports festival	どちらの語にもアクセント。	運動会
英語らしい音を出すコツ	festival の語尾の l は「ウ」に近い音。「フェスティボウ」に聞こえてよいが、l の舌先は歯の裏に押しつける。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	年中行事で年に一度だと考えて、the を付けて言う。	

music festival	どちらの語にもアクセント。	音楽祭
英語らしい音を出すコツ	「ミュージック」ではなく「ミュージク」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	年中行事で年に一度だと考えて、the を付けて言う。	

drama festival	ra にアクセント。	演劇祭
英語らしい音を出すコツ	日本語の「ドラマ」のように「ド」を強くしない。「ジュラマ」のように聞こえてもよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	年中行事で年に一度だと考えて、the を付けて言う。	

volunteer day	-teer にアクセント。	ボランティア活動
英語らしい音を出すコツ	最初の v は下唇にしっかりと歯を当てる。「ヴァ」と言うくらい広い口の形で「ヴォ」と言う。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	年中行事で年に一度だけの小学校では、the を付けて言う。何度もある小学校なら a を付けたり、volunteer days と言ったりする。	

graduation ceremony	-ation にアクセント。	卒業式
英語らしい音を出すコツ		
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	卒業式は小学校時代に一度しかないの、普通は the を付け、the graduation ceremony と言う。	

指導の手引き 9 し設・乗り物①

amusement park	mu にアクセント。	遊園地
英語らしい音を出すコツ	ment の e にはアクセントがないので、「マント」「メント」「ムント」のいずれにも聞こえる曖昧な音でよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。母音で始まる語なので単数であれば an を付ける。	
文化的な情報、応用表現など		

aquarium	真ん中の a にアクセント。	水族館
英語らしい音を出すコツ	「エイ」の音をしっかり出す。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	学級でオタマジャクシを飼育するような水槽も aqualium と呼ぶ。	

supermarket	最初の su- にアクセント。	スーパーマーケット
英語らしい音を出すコツ	-per のところにはアクセントがないので、口をあまり開かずに弱く発音する。-market は「マーケット」というよりも「マーキット」のように。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

park		公園
英語らしい音を出すコツ	アメリカ英語では「アー」の音に、舌をそらせて r の音を響かせる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	イギリス英語では a car park は駐車場。アメリカ英語では a parking lot と呼ぶ。駐車場の入り口の P の文字は parking を示している。また、a ballpark は野球場のこと。	

flower shop	両方にアクセント。	生花店、花屋
英語らしい音を出すコツ	shop の o も「ア」の口の形のまま「オ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

street		通り
英語らしい音を出すコツ	str をつなげ、1 つのかたまりのように発音する。「スチュリート」に近い響き。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「道」だが、両側に家や商店がある、街路のこと。	

house		家
英語らしい音を出すコツ	語尾の s の音に u がつかないように。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	公共の建物も house と呼ぶことがある。	

指導の手引き 8 し設・乗り物②

restaurant	re- にアクセント。	レストラン、食堂
英語らしい音を出すコツ	語尾の t は舌先を上歯の裏に当てる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	外来語のレストランにつられて最後の t を発音しないのは誤り。	

hospital	hos- にアクセント。	病院
英語らしい音を出すコツ	hos- の o も「ア」の口の形のまま「オ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	hospital は入院設備のあるもの。個人医院は clinic と呼ばれる。	

post office	poにアクセント。	郵便局
英語らしい音を出すコツ	post の o は唇を丸め、「オウ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

post		ポスト
英語らしい音を出すコツ	post の o は唇を丸め、「オウ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカでは mailbox と呼ぶ。	

convenience store	ve- と sto- にアクセント。	コンビニエンスストア
英語らしい音を出すコツ	語頭の con-は弱くてよい。velは伸ばす。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

bookstore	boo-にアクセント。	書店
英語らしい音を出すコツ	store は「ストア」ではなく s と t をひとかたまりとして発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	1語としてつづる。イギリスではbookshopと呼ぶこともある。	

department store	par-とsto-にアクセント。	デパート、百貨店
英語らしい音を出すコツ	ment の e にはアクセントがないので、「マント」「メント」「ムント」のいずれにも聞こえる曖昧な音でよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	depart だけでは「離れる」の意味。department も「部署」の意味。いろいろな売り場 (department) に分かれている店 (store) なので、このように呼ばれる。	

指導の手引き 9 し設・乗り物③

castle		城
英語らしい音を出すコツ	ca-は「ケ」を言うつもりで口の形で「カ」と言う。tは発音しない。leは舌の先を上歯の裏に押し当てる「ウ」に近い暗い音。「ケァスウ」と聞こえるように。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	イギリス英語では「カースウ」と発音する。 Himeji Castle is a world heritage site. 「姫路城は世界遺産です」	

museum	se-にアクセント。	美術館、博物館
英語らしい音を出すコツ	「ミュージアム」でなく「ミュズィーアム」と、アクセントのある se を伸ばして発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	美術館は art museum と呼ぶ。	

station	a-にアクセント	駅
英語らしい音を出すコツ	-tion にはアクセントがないので、「ション」と「シャン」のどちらにも聞こえるような弱い音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	警察署も消防署も station が付く。鉄道の駅とはっきり言いたいときには railway station (イギリス英語) または railroad station (アメリカ英語)。	

shrine		神社
英語らしい音を出すコツ	語尾の n を、舌先を上歯の裏につけ、しっかり発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	神道 (Shintoism) の神社は、特に Shinto shrine ということも多い。Torii is the gate for a Shinto shrine. 「鳥居とは神社の門のことです」	

zoo		動物園
英語らしい音を出すコツ	oo は唇をしっかりと突き出して、長く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	zoo という語は、zoolozy (動物学) から。	

temple		寺、寺院
英語らしい音を出すコツ	語尾の le は舌先を上歯の裏につけて「ウ」のように発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	仏教 (Buddhism) の寺院は他の宗教の寺院と区別して Buddhist temple と呼ぶことも多い。	

指導の手引き 9 し設・乗り物④

taxi		タクシー
英語らしい音を出すコツ	ta-は「テ」を言うつもり口の形で「タ」と言う。語尾は「シー」ではなく「スイ」と軽く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ英語では cab (ケャブ) と呼ぶこともある。	

bus		バス
英語らしい音を出すコツ	uで綴る「ア」は、口の真ん中で発音する。日本語のアとほとんど同じ。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は buses と綴る。	
文化的な情報、応用表現など		

jet		ジェット機
英語らしい音を出すコツ	j は舌先を上歯茎にしっかり付けて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	一般的には、ジェット機もプロペラ機も含めて、airplane または plane と呼ぶ。	

fire station	fire にアクセント。	消防署
英語らしい音を出すコツ	「ファイヤー」ではなく「ファイア」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	消防車は fire engine と呼ぶ。	

police station	police の i にアクセント。	警察署
英語らしい音を出すコツ	「ポリース」と伸ばして発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	police は警察官でなく、警察という組織のこと。	

gas station	両方にアクセント。	ガソリンスタンド
英語らしい音を出すコツ	gas の s と station の s をつなげて発音してよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	イギリス英語では petrol station というのが一般的。	

指導の手引き 10 職業①

artist	ar-にアクセント。	芸術家
英語らしい音を出すコツ	「アーティスト」ではなく「アーティスト」。語尾のsとtはひとかたまりに。	
文法的な注意事項		
文化的な情報、応用表現など	一般的には彫刻や絵画などを専門とする芸術家を指す。	

astronaut	最初の a にアクセント。	宇宙飛行士
英語らしい音を出すコツ	語尾の naut のところは「ナー」というつもりで口を開いて「ノー」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。母音で始まる語なので単数であれば an を付ける。	
文化的な情報、応用表現など		

baker	最初の a にアクセント。	パン屋
英語らしい音を出すコツ	k の音は息を強く吐くように。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	baker はパンを焼く技術者、職人。店は bakery 。	

baseball player	base と player の両方にアクセント。	野球選手
英語らしい音を出すコツ	「ベー」と伸ばす音にならないように。語尾の l は rice ball の l と同様、舌先を上歯の裏に押しつけたまま発音する「ウ」に近い音。「ベイスボーウ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

bus driver	bus と driver の両方にアクセント。	バス運転手
英語らしい音を出すコツ	bus の「ア」は、口の真ん中で発音する。日本語のアとほとんど同じ。Driver の dr はひとつのかたまりのように発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

comedian	me-にアクセント。	コメディアン、お笑い芸人
英語らしい音を出すコツ	最初の co はアクセントがないので軽く。「コメディアン」ではなく「コミディアン」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	comedy 「喜劇」から来た語。	

cook		調理師
英語らしい音を出すコツ	oo は唇を突き出して、短く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	chef 「シェフ」はフランス語で料理長の意味。	

dentist	最初の de にアクセント。	歯科医
英語らしい音を出すコツ	語尾の t は舌先を上歯の裏に当てて、弾かない。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

指導の手引き 10 職業②

doctor	最初の do-にアクセント。	医者
英語らしい音を出すコツ	「ダ」というつもりで開いた口の形のまま「ド」と発音する。「ド・ク・ター」と3音節にせずに、docとtor の2音節になるように発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	She is a doctor. と言えば「彼女は医者だ」という意味に取るのが普通だが、Dr. Brown のように苗字の前に付けると「ブラウン博士」と言うように、称号になる。	

farmer		農家
英語らしい音を出すコツ	アメリカ英語では「アー」の音に、舌をそらせて r の音を響かせる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	farmer は農業を職業とする人。農業をする人が住む家は farmer's house と言う。 I see a farmer's house. 「農家が1軒見える」	

fire fighter	両方の fi にアクセント。	消防士
英語らしい音を出すコツ	両方の f は、しっかり上の歯で下唇をかんで発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	文字通りでは「火事と闘う人」という意味。	

figure skater	fi- と ska- の両方にアクセント。	フィギュアスケート選手
英語らしい音を出すコツ	アメリカ英語では「フィギュア」、イギリス英語では「フィガ」と発音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	もともと、スケートで滑りながら氷上に図形 (figure) を描く競技だったので、こう呼ばれた。	

flight attendant	fli- と tend の両方にアクセント。	客室乗務員
英語らしい音を出すコツ	f は上の歯で下唇をかんで発音し、l は f の直後に、舌先を上歯の裏に押しつけるようにする。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	cabin attendant とも言う。	

floist	flo- にアクセント。	花屋
英語らしい音を出すコツ	l が r にならないよう、舌先を上歯の裏に押しつけるようにする。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	花屋の店主、または店員のこと。店ではない。	

hero	he-にアクセント。	ヒーロー
英語らしい音を出すコツ	イギリス英語では「ヒアロウ」、アメリカ英語では「ヒロウ」と発音する。語尾の o は唇を丸めながら「オウ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は heroes と綴る。	
文化的な情報、応用表現など	hero とは元来「英雄」のこと。スポーツ界で皆が憧れる選手も hero であり、アニメや映画、ドラマの特撮ヒーローは superhero (su-にアクセント) と呼ぶ。従来は男だけを指す語だったが、現在は男女を問わず用いる。ただし、映画やドラマの主役の男性と女性は、今でも hero, heroine 「ヒロウイン」と呼ぶのが普通。	

king		王様
英語らしい音を出すコツ	ing は、息が鼻へ抜ける音なので、gで止めた息を吐かないこと。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	血統によって受け継がれる君主のこと。ただし日本の天皇の英訳には、emperor を使う。	

指導の手引き 10 職業③

pilot	最初の i にアクセント。	パイロット、操縦士
英語らしい音を出すコツ	l の音は、舌先を上歯茎に付けて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	l の音が r になってしまうと、pirate 「海賊 パイラト」と誤解される。	

police officer	police の i にアクセント。	警察官
英語らしい音を出すコツ	「ポリース」と伸ばして発音する。officer の o は「ア」と言うつもりで大きく開けた口で「オ」と言う。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	警察官には、「Officer!」と呼びかける。道を教えてもらったなら、「Thank you, officer!」と言えばよい。	

queen		女王
英語らしい音を出すコツ	q のあとのwの音をしっかりと発音する。語尾の n も、舌先を上歯の裏に付けてしっかりと発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	queen は king の妻のこと。また、西欧の多くの国では、王に息子がいない場合、女性が君主になり queen と呼ばれる。イギリスのエリザベス2世女王の夫君エディンバラ公が king と呼ばれないのは、先代の英国王の子孫ではないので王位継承権がないからである。	

singer		歌手
英語らしい音を出すコツ	sing は息が鼻に抜ける音なので、sin のあとに「ガー」と言って「シ・ン・ガー」と3音節で言うのは間違い。sing の ng が鼻にかかったまま 「スィング・ア」と、2音節で発音するのが正しい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	よく似ているが、finger は「フィン・ガー」と、gをはっきり発音する。	

soccer player	so- と play の両方にアクセント。	サッカー選手
英語らしい音を出すコツ	soccer の o は、「サ」と言うつもりで大きく開けた口のまま「ソ」と言う。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英国では、普通、サッカーを football と呼ぶ。オーストラリアやニュージーランドでは football と言えばラグビーのことだと理解される。アメリカとカナダでは football と言えばアメリカン・フットボールのこと。	

teacher		先生、教師
英語らしい音を出すコツ	最初の t に力を込めて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	teacherは敬称にはならないので、「先生!」と呼びかけるときは「Teacher!」とは言わずに「Mr. Sato!」や「Ms. Koizumi!」のように名前を呼ぶのが正しい。「鈴木先生」を Suzuki-teacher と言うことも間違い。また、ALTを敬称なしのファーストネームで呼ばせるのに抵抗があるときには、ファーストネームに sensei を添えて、Linda-sensei などと呼ばせるのもよいかもしれない。	

vet		獣医
英語らしい音を出すコツ	v は下唇に上の歯を当てて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	vet は veterinarian 「ヴェタリネアリアン (アメリカ英語)」の略語。イギリス英語では、正式には、veterinary surgeon 「ヴェタリナリ・サーजन」を使う。	

zookeeper	zooにアクセント。	飼育係
英語らしい音を出すコツ	oo は唇を突き出して、長く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	1語として綴る。動物園管理人、または動物園の飼育員。	

指導の手引き 11. 日常生活(1)

shirt		シャツ
英語らしい音を出すコツ	irは口を広げずに長く発音する。狭めた唇の間から出す「ウー」にも「アー」にも聞こえる曖昧な音。単数の場合は、語尾が「ツ」にならないよう注意する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。1枚のシャツは、a shirt。複数形は shirts。sを付けるが、tとsを続けて発音するのではなく、「ツ」のような音になる。	
文化的な情報、応用表現など	英語ではワイシャツも shirt と呼び、肌着のシャツ (undershirt) も shirt と呼ぶことがある。	

sweater		セーター
英語らしい音を出すコツ	「セー」ではなく「ウェ」にアクセント。wea は短く発音し「スウェタ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	元来は「汗 (sweat) をかくための衣類」という意味。	

pants		ズボン
英語らしい音を出すコツ	「エ」の口をして「ア」と言う。	
文法的な注意事項	常に複数形。They are good pants. 「それは良いズボンだ」と言う。This pants is good. や This is my pants. は間違い。	
文化的な情報、応用表現など	アメリカ英語でズボンを pants と言い、下着のパンツは underpants と呼ぶ。イギリス英語では、pants は下着であり、ズボンは trousers (-rou-は「ラウ」と発音) とする。	

hat		帽子
英語らしい音を出すコツ	「エ」の口をして「ア」と言う。最後のt は「ト」にしないように、舌先を上歯の裏にしっかり当てて止める。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。1つの帽子は、a hat。語尾の発音は cat と同じ。複数形は hats。sを付けるが、tとsを続けて発音するのではなく、「ツ」のような音になる。	
文化的な情報、応用表現など	つばがぐるりと一周しているものを hat と呼ぶ。なお、hat のつばは brim と呼ぶ。	

T-shirt		Tシャツ
英語らしい音を出すコツ	Tとshirt に均等にアクセント。Tのあとに shirt を発音すればよい。shir は口を広げずに狭めた唇の間から長く発音する。「シュー」にも「シャー」にも聞こえる曖昧な音。単数の場合は、語尾が「ツ」にならないよう注意する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。一枚なら a T-shirt。複数形は T-shirts。	
文化的な情報、応用表現など	tee shirt とつづることもある。シンプルな形がアルファベットのTに見えるのでそう呼ばれる。	

shorts		ショートパンツ
英語らしい音を出すコツ	shirtと聞き違えられないよう、口をしっかり開けて「オー」と発音する。語尾が「ツ」にならないように注意する。	
文法的な注意事項	常に複数形。They are good shorts. 「それは良い短パンだ」と言う。This shorts is old. や This is your shorts. は間違い。	
文化的な情報、応用表現など	女性用肌着 (underpants) も shorts と呼ぶことがある。また、アメリカでは男性用下着を shorts と呼ぶ。ショートパンツ (短パン) なのか下着なのかは、文脈で判断するのがよい。	

cap		帽子
英語らしい音を出すコツ	日本語の外来語としては「キ」に拗音(ちいさい「ゃ」)を添えて「キャップ」と表記するが、英語としては、このaは map や happy のaと同じ、「エ」と「ア」の中間の音なので、「マップ」というつもりで発音するのが原音に近い。なお、最後の p は両唇が閉じる。「プゥ」と吐き出さないように注意。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	野球帽のように、前だけにつばがあるものやつばがないものは cap と呼び hat と区別する。capのつばはアメリカ英語では visor (バイザー)、イギリス英語では peak (ピーク) と呼ぶ。	

boots		ブーツ
英語らしい音を出すコツ	唇をしっかり丸めて突き出し力強く「ブー」を発音する。	
文法的な注意事項	通常は複数形。They are good boots. 「それは良いブーツだ」のように言う。This boots is good. や This is my boots. は間違い。ただし片足分だけを話題にするなら、This is your boot. とか Where is my boot. とする。	
文化的な情報、応用表現など	雨用の長靴も boots でよい。漁業などで使うゴム長は rubber boots と言ってもよい。	

指導の手引き 11. 日常生活(2)

racket	ra にアクセント。keではない。	ラケット
英語らしい音を出すコツ	r で始まるので、舌先が上の歯の裏に付かないように意識する。コツとしては r の前にwがあるつもりで「(ウ)レアキト」のように発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	ラケットの種類を言うなら、テニスなら a tennis racket, バドミントンなら a badminton racket, 卓球なら a table tennis racket と、競技名を前に付けて言えばよい。	

glove	gではなく -love にアクセント。「グラブ」にならないように。	グローブ
英語らしい音を出すコツ	「ロー」ではなく、loveと同じように「グラブ」と発音する。最後の音は v なので、両唇を閉じずに下唇に上の歯を当て「ヴ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	手袋も gloves という。両手分をまとめて話題にするときには boots と同様に複数形にして、Doctors wear plastic gloves. のように使う。	

bat		バット
英語らしい音を出すコツ	日本語の外来語としては「バット」と表記するが、英語としては、この a は cat や hat と同じ「エ」と「ア」の中間の音なので、「ベアト」のつもりで発音するのが原音に近い。なお、最後の t は舌先が上の歯の裏について止める。「ト」にならないように注意。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は語尾の -ts を「ツ」のように発音する。	
文化的な情報、応用表現など	動物のコウモリも同じ発音、同じつづり。	

drum	「d」ではなく、-rum にアクセント。「ドラム」にならないように。	太鼓
英語らしい音を出すコツ	d と r の間に母音を入れないように、少し「デュラム」に近い音にする。母音は、bus や cup と同じように口の中央で軽く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は語尾の -s を「ス」ではなく、有声音（濁音）の「ズ」で発音するようにする。	
文化的な情報、応用表現など	I play the drums. のように言えば、ロックバンドなどのドラム奏者である。ブラスバンドや鼓笛隊の大太鼓は bass drum(ベース… と発音)、小太鼓は snare drum (スネア…と発音)。	

guitar	-tar にアクセント。	ギター
英語らしい音を出すコツ	uのつづりにつられて「グィ」と言うのは誤り。「ギ」と発音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「ギターの音色や曲が好き」と言いたいときは、I like a guitar. ではなく I like guitar music. とする。演奏できるときには I can play the guitar. のように、theを付けるのが正しい。	

piano	-a-にアクセント。	ピアノ
英語らしい音を出すコツ	aの音は、catやmapと同様、「エ」と「ア」の中間の音であるので、「ピエァノウ」と言うつもりで発音する。語尾のoは丸めて「ノウ」のように発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「ピアノの音色や曲が好き」と言いたいときは、I like a piano. ではなく I like piano music. とする。演奏できるときには I can play the piano. のように、theを付けるのが正しい。	

recorder	-cor にアクセント。	リコーダー
英語らしい音を出すコツ	r で始まるので、舌先が上の歯の裏に付かないように意識する。コツとしては r の前にwがあるつもりで「(ウ)リコーダ」のように発音する。語尾の「ダー」が強すぎないように注意する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「リコーダーの音色や曲が好き」と言いたいときは、I like a recorder. ではなく I like recorder music. とする。演奏できるときには I can play the recorder. のように、the を付けるのが正しい。	

violin	-lin にアクセント。	バイオリン
英語らしい音を出すコツ	最初の音は v なので、両唇を閉じずに下唇に上の歯を当て「ヴ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「バイオリンの音色や曲が好き」と言いたいときは、I like a violin. ではなく I like violin music. とする。演奏できるときには I can play the violin. のように、the を付けるのが正しい。	

指導の手引き 11. 日常生活 (3)

telephone	最初の te- にアクセント。	電話
英語らしい音を出すコツ	phはfの音なので下唇に歯を当てて発音する。-leは「エ」よりも「イ」に近い音。語尾の oneは「OUN」と丸めて発音するので、「テレホン」ではなく「テリフォウン」に近い。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日常では電話を単に phone と呼ぶことも多い。携帯電話は mobile phone (イギリス英語では「モバイルフォウン」アメリカ英語では、「モウバルフォウン」と呼ぶ。パソコンの機能を備えたいわゆるスマホは smartphone という。アクセントは -mar- のところに置く。	

computer	pu- にアクセント。	パソコン
英語らしい音を出すコツ	最初の com はアクセントがないので、唇を薄く開け、「コム」よりも「クム」ぐらいのつもりで発音する。-pu は 唇を丸めて尖らせて力強く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	ノートパソコンは a laptop と呼ぶのがふつう。ひざ (lap) の上に載せて使うので。	

TV	TとVの両方に等しくアクセント。	テレビ
英語らしい音を出すコツ	アルファベットとして読めばよい。Vは「フイ」ではなく、上の歯を下唇に当てて「ヴィー」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	TVはもちろん television の略語。アメリカ英語では、television は語頭の te- にアクセントを置くのが普通だが、イギリス英語では -vi- にアクセントを置く人が多い。	

table		テーブル
英語らしい音を出すコツ	「テー」と伸ばすのではなく「ティ」。語尾の -le は ballのlと同様、日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になる。「ティブウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語で table と言えば、食卓用、会議用、応接用などのテーブルを指す。学校の教室にある教卓は、日本の和英辞典では teacher's desk と訳していることが多いが、先生の仕事用机というよりも、授業に必要な本や物を置くためのものなので、teacher's table と呼ぶのがよいように思われる。	

wheelchair	wheel にアクセント。	車いす
英語らしい音を出すコツ	語頭の wをしっかりと発音する。wheel のlは table のleと同様、日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になり次の chair につながる。「ウィーウチェア」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	wheel (車輪) と chair (椅子) の合成語。	

bicycle	bi- にアクセント。	自転車
英語らしい音を出すコツ	-cycle は「シ」ではなく「スイ」になるように注意する。語尾の cle の le は、ほかの語尾の le と同様、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になる。「バイスイクウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	bi- は2を表すラテン語に由来するので、二輪車のこと。ちなみに tricycle (トライスイクウ) は三輪車。tri- はギリシャ語で3を意味する treis から。また、一輪車は unicycle (ユニサイクウ) と呼ぶ。uni はラテン語の unus (1の意味) を語源としている。	

bed		ベッド
英語らしい音を出すコツ	「ベ・ッ・ド」のような3音節にならないように注意する。なお、最後の d は舌先を上歯の裏にしっかり付けて止める。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「寝る」意味では冠詞を付けずに go to bed という。What time do you go to bed? 家具としては a bed, beds を用いる。I want a new bed. 「新しいベッドが欲しい」 This room has two beds. 「この部屋はベッドが2つある」	

bath		風呂
英語らしい音を出すコツ	語尾の -th は舌先を上下の歯に挟んで発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	イギリス英語では「バース」と発音するが、アメリカ英語では bat や hat の a と同じように「ベアス」のように発音する。「入浴する」は take a bath という。What time do you take a bath? 「何時に入浴しますか」	

指導の手引き 11. 日常生活(4)

cup		カップ
英語らしい音を出すコツ	「カ・ッ・プ」のような3音節にならないように注意する。uは bus の u と同じで口の中央で軽く「ア」と発音する。最後の p は両唇を閉じてしっかり止める。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	丸い形のものを cup と言う。日本茶に使うような、持ち手のないものも cup と呼んでよい。大きなもので側面が直線になっているものは mug と言う。	

dish		皿
英語らしい音を出すコツ	語尾が「シュー」と伸びないように注意する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	深さのあるものを dish と呼ぶ。平たい皿は plate 。	

newspaper	newsにアクセント。	新聞
英語らしい音を出すコツ	「ニュースペーパー」でなく、「ニュースペイパ」。	
文法的な注意事項	新聞というメディアは数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	現代では、ウェブ版の新聞も newspaper と呼ぶ。また、新聞社のこともそう呼ぶ。	

box		箱
英語らしい音を出すコツ	o は、「ア」の口をしたまま「オ」と発音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は boxes (ボックス)。	
文化的な情報、応用表現など	段ボール箱は、cardboard box と言う。ちなみに cardboard は「ボール紙」のこと。この「ボール」は boardが日本語に取り入れられた際になまったもの。	

bag		かばん
英語らしい音を出すコツ	母音の a は、cap や bat の a と同じ、「エ」と「ア」の中間の音。ベアグのように聞こえる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	紙袋、ビニール袋 (plastic bag) 、かばん、布の袋、すべて bag である。	

watch		時計
英語らしい音を出すコツ	wa- は、「ワ」の口の形のまま「ウォ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	腕時計、懐中時計のこと。掛け時計、置き時計は clock。	

umbrella	真ん中の bre- にアクセント。	傘
英語らしい音を出すコツ	r と l が含まれるので、区別して発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。冠詞は an を用いる。	
文化的な情報、応用表現など	日傘は parasol (pa-にアクセント)。	

garbage	gar-にアクセント。	ごみ
英語らしい音を出すコツ	-bage は「ページ」でなく「ビジ」と短く発音する。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	ほこりは dust と呼ぶ。	

指導の手引き 11. 日常生活(5)

homework	ho- にアクセント。	宿題
英語らしい音を出すコツ	home は「ホーム」でなく「ホウム」。唇を丸めるoを使う。-work は唇をあまり開かずに曖昧に「アー」と「ウー」の中間の曖昧な音を出す。	
文法的な注意事項	数えられない名詞。I have a lot of homework. と言うが、I have many ... は言えない。	
文化的な情報、応用表現など	子どもの側が「今日は宿題がある」と言うときには、I have homework today. 教員が子どもたちに伝えるときには、I will give you homework. とか、This is homework. と言えばよい。「宿題をする」は do my (your) homework 。	

magnet	mag- にアクセント。	磁石
英語らしい音を出すコツ	mag-の a は cat や hat と同じ「エ」と「ア」の中間の音なので、「メガネト」のつもりで発音するのが原音に近い。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形 magnets は語尾が「ツ」になることに注意。	
文化的な情報、応用表現など	磁石のN極、S極は、それぞれ、N pole, S pole と呼ぶ。 The same poles repel. 「同じ極は反発します」	

book		本
英語らしい音を出すコツ	1音節語なので、「ブッ・ク」にならないように注意。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	教科書をテキストと呼ぶのは英語として正しくない。正しくは textbook 。同様にノートも notebook というのが英語の言い方。	

calendar	ca-にアクセント。	カレンダー
英語らしい音を出すコツ	語頭の a は cat や hat と同じ「エ」と「ア」の中間の音なので、「ケァレンダァ」のつもりで発音するのが原音に近い。中間の l が r にならないよう注意。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。普通は、the を付けて使うことが多い。	
文化的な情報、応用表現など	カレンダーが何曜日から始まるべきかについては議論がある。北米では旧約聖書に基づき日曜日が最初の日だと考える人が多いので、Sunday がいちばん右に来ようになっている。一方、ヨーロッパでは、月曜日から始まるカレンダーを標準として定めているので、Monday がいちばん左にある。しかし、どちらの地域も土日を weekend と呼ぶことは共通している。	

desk		机
英語らしい音を出すコツ	「デ・ス・ク」のように3音節にしないこと。母音は -e- だけであり、語尾の -sk には母音は含まれないので、1音節の語である。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語で desk と言えば仕事や作業に使うものでパソコンを置いたり、引き出しなどの収納がついているものを言う。学校の教室にある教卓は、日本の和英辞典では teacher's desk と訳していることが多いが、先生の仕事用机というよりも、授業に必要な本や教具を置くためのもので、teacher's table と呼ぶのがよいように思われる。	

chair		いす
英語らしい音を出すコツ	語尾を長く引き伸ばさないように注意する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	背もたれのないいすは、stool (ストウール) と呼ぶ。	

clock		時計
英語らしい音を出すコツ	母音は o だけの1音節語なので、o と l の間に母音を入れないように注意する。o は「ア」の口の形で「オ」と言う。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	壁掛け型や置き時計のことである。腕時計は watch と言う。	

card		カード
英語らしい音を出すコツ	「カ・ア・ド」のように3音節にしないこと。母音は -ar- だけであり、語尾の -d には母音は続かないので、d は舌先を上歯の裏にしっかり付けて止める。	
文法的な注意事項	1枚のカードは a card. トランプのようにセットになっているなら、cardsになる。	
文化的な情報、応用表現など	「トランプをする」は play cards と言う。 I don't want to play cards today. 「今日、トランプはしたくない」	

指導の手引き 12. スポーツ(1)

archery	最初の ar- にアクセント。	アーチェリー
英語らしい音を出すコツ	語尾の ry は l にならないよう、舌先が歯茎に触れないように注意。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	個人競技なので do を使う。Do you do archery? 「アーチェリーをするのですか」	

badminton	最初の bad にアクセント。	バドミントン
英語らしい音を出すコツ	bad-min-ton の3音節になるように発音する。dのあとにoが入って「ド」にならないよう注意。最初の母音の a は、bag や hat の a と同じ、「エ」と「ア」の中間の音。語尾の ton は母音の o をはっきり言わず t と n だけのような感じで。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	コート (court) の中で相手があつてする競技は、play を使う。 Do you want to play badminton? 「バドミントンしたいの?」	

baseball	最初の base にアクセント。	野球
英語らしい音を出すコツ	「ベース」でなく「ベイス」。語尾の l は、l で終わるほかの語と同様、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になる。「ベイスボーウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	野球などの球技は play を使う。 野球はコートではなく field で行う。専用球場は ballpark と呼ぶ。	

basketball	最初の ba- にアクセント。	バスケットボール
英語らしい音を出すコツ	最初の母音の a は、bag や bat の a と同じ、「エ」と「ア」の中間の音。ベアスキトボーウのように聞こえる。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	バスケットボールもほかの球技と同様に play を使う。コート (court) で行う。	

boxing	最初の box- にアクセント。	ボクシング
英語らしい音を出すコツ	o は、「ア」の口をしたまま「オ」と発音。また、「シング」でなく、「スィング」のように、語尾の ing は鼻に抜ける音を意識する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	格闘技は play でなく、do を使う。	

canoeing	-noe- にアクセント。	カヌー
英語らしい音を出すコツ	最初の「カ」は軽く、次の noe は noodle と同じ、唇を丸く突き出す。語尾の ing は鼻に抜ける音を意識する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing で終わる競技名と同様、元は canoe という動詞。だから「カヌーできる?」は Can you canoe? だよ。	

climbing	最初の i にアクセント。	クライミング
英語らしい音を出すコツ	c と l の間に母音はないことに注意。また、l の音は、日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌先を上歯の裏にしっかり押しつけて発音する。語尾の -ing は鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing で終わる競技名と同様、元は climb という動詞。「クライム」と発音する。だから「登山するの?」は Do you climb? だよ。	

cycling	最初の cy- にアクセント。	サイクリング、自転車競技
英語らしい音を出すコツ	2つ目の c と l の間に母音はないことに注意。また、l の音は、日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌先を上歯の裏にしっかり押しつけて発音する。語尾の -ing は鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	オリンピックの自転車競技やツール・ド・フランスのようなレースも、休日に自転車で遠出する気軽なサイクリングも、英語ではすべて cycling である。	

指導の手引き 12. スポーツ (2)

dodgeball	最初の do にアクセント。	ドッジボール
英語らしい音を出すコツ	最初のdo- は、「ダ」の口をしたまま「ド」と発音。語尾の l は、ほかの l で終わる語と同様、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になる。「ダジボーウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	dodge は「よける」の意味。	

football	foot にアクセント。	フットボール、サッカー
英語らしい音を出すコツ	最初の f は下唇に歯を当てて発音する。この語は foot と ball の合計 2 音節でできていることを意識して発音する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	英国では、普通、サッカーを football と呼ぶが、オーストラリアやニュージーランドでは、たいていは、ラグビーのことを football と呼ぶ。アメリカとカナダでは football と言えばアメリカン・フットボールのこと。	

gymnastics	中間の -na- にアクセント。	体操
英語らしい音を出すコツ	gym-nast-ics の三音節語。-nast- の a 音は、bag や bat の a と同じ、「エ」と「ア」の中間の音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	オリンピックなどの競技としての体操であり、ラジオ体操や体育授業での準備運動 (exercise) などを指すのではない。	

marathon	最初の ma- にアクセント。	マラソン
英語らしい音を出すコツ	ma-ra-thon の 3 音節から成る語。舌先がどこにも触れない r の発音にも注意。-thon は、舌先を両方の歯で挟んで発音する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	英語では 42.195km を走る競技だけがマラソンである。日本の小学校のマラソン大会は、a long-distance run と呼ぶのが正しい。	

rugby	最初の rug- にアクセント	ラグビー
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)ラグビ」と発音すると英語らしくなる。rug- の u は bus や cup と同様の軽い「ア」。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ラグビーが盛んなニュージーランドやオーストラリアでは、football と言えばラグビーのことになる。	

sailing	最初の sail- にアクセント。	セーリング、ヨット
英語らしい音を出すコツ	「セイ」ではなく「セイ」。後ろに -ing が付くときの l は「暗いウ」のような発音にしない。語尾の -ing は鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	2000年のシドニーオリンピックから「セイリング」と呼ばれるようになった。現代の英語ではヨット (yacht) は、大型の豪華なものを指すことが一般的。	

soccer	最初の so- にアクセント。	サッカー
英語らしい音を出すコツ	語頭の o は「ア」の口をしたまま「オ」と発音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	英国では football と呼ぶことが多い。	

surfing	最初の sur- にアクセント。	サーフィン
英語らしい音を出すコツ	あまり口を開かずに「サー」と [スー] の間の曖昧な音を出す。語尾の -ing は鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing で終わるスポーツと同様、元は動詞である。play は使わず I surf every day in the summer. のように言う。	

指導の手引き 12. スポーツ (3)

swimming	最初の swi- にアクセント。	水泳
英語らしい音を出すコツ	sとwをしっかりつなげて発音する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ingで終わるスポーツと同様、元は動詞である。play は使わず Do you swim this summer? 「今の夏は泳ぐ？」のように言う。	

table tennis	最初の ta- にアクセント。	卓球
英語らしい音を出すコツ	table は「テー」と伸ばすのでなく「ティ」。-ble は日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になり「ティブゥ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	table tennis もほかの球技と同様に play を使う。	

tennis	最初の te- にアクセント。	テニス
英語らしい音を出すコツ	語頭のte-を力強く吐き出すように発音する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	tennis もほかの球技と同様に play を使う。	

track and field	track と field の両方にアクセント。	陸上競技
英語らしい音を出すコツ	and はアクセントなしで軽く、en か n ぐらいのつもりで発音する。直前の track と切らずに「トラクン…」と言う。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	trackは走る競技を指し、field は競技場内での飛ぶ、投げるなどの競技である。イギリス英語では athletics と言うことも多い。	

volleyball	vo-にアクセント。	バレーボール
英語らしい音を出すコツ	vo- のoは「ア」の口をしたまま「オ」と発音するので、「ヴォ」と「ヴァ」の間ぐらいの音になる。中間のlの音も注意して出したい。ヴォリポーウと聞こえるような発音が近い。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	球技なので、play を使って表現する。テニスでバウンドさせないでボールを打つことを「ボレー」と呼ぶが、英語では volley なので、volleyball と同じである。	

weightlifting	wei-にアクセント。	ウェイトリフティング
英語らしい音を出すコツ	カタカナでは「ウ・エ・イ・ト」の4音節になるが、英語では weight-lift-ing の3音節になるように発音する。語尾の -ingは鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing が付く競技と同様、元は動詞である。play は使わない。	

wrestling	-e- にアクセント。	レスリング
英語らしい音を出すコツ	語頭の w は発音しないが、少し口をとがらせるように意識すると r の発音が出しやすい。語尾の -ingは鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing が付く競技と同様、元は動詞である。play は使わない。	

指導の手引き 13. 色 (1) (2)

white		白
英語らしい音を出すコツ	「ホ」の次に「ワイ」を発音するのではない。「ワイ」と同時に息を強く出し「ワイ」に「ホ」がかぶさるようになればよい。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の人たちの感覚では、雪、ミルク、骨の色。ワイシャツの「ワイ」は white shirt が日本語に入るときになまったもの。名詞として使うときは、「白人」または「卵の白身」などに限られる。しかしALTの肌の色は話題にするべきでない。	

yellow	最初の ye-にアクセント。	黄
英語らしい音を出すコツ	「イ・エロー」のようにならないように注意。最初の ye- を思い切り力強く、中央の l は、舌先を上歯の裏にしっかり付け、語尾は唇を丸める。「イエラウ」のように発音する。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の人たちの感覚では、レモン、金属の金、紅葉の色。英語圏の子どもたちは太陽を黄色く塗る。児童に教える必要はないが「アジア人」への差別的表現として使われることもあるので注意。	

pink		ピンク
英語らしい音を出すコツ	p は唇をしっかりと閉じて勢いよく吐き出す。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏では、かなり濃い色も pink と呼ぶようだ。日本では、エビをゆでると「赤くなる」と言うが、英語圏では Prawns turn pink when they are cooked. のように言う。(turn は「変わる」、cook は「火を通して調理する」の意味。)	

orange	最初の o- にアクセント。	オレンジ
英語らしい音を出すコツ	最初の o は、アの口をして「オ」と発音する。「オレンジ」と真ん中にアクセントを置かないように注意。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏では果物のオレンジの色。また、夕日の色。	

green		緑
英語らしい音を出すコツ	多くの日本語話者にとって、意図的に「ぐ・り」と言わない限り、英語の gr は続けて発音しやういはず。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏でも草木の色。英語圏の人にとって交通信号は青ではなく緑色。「環境に優しい」の意味にも用いる。	

red		赤
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)レド」と発音すると英語らしくなる。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	オクスフォード英英辞典では「血や火の色」、ケンブリッジ大学出版の英英辞典でも「鮮血の色」とする。また、恥ずかしさや怒りに顔色を赤くするのも red 。	

purple		紫
英語らしい音を出すコツ	語頭の pur- はあまり口を開かず「パー」と [プー] の中間の曖昧な音を出す。語尾の -le は舌先を弾くのではなく「パーブウ」のように、舌を上歯の裏に付けて、暗い感じの「ウ」に近い音を出す。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英英辞典では「赤と青」を混ぜた色と定義する。虹の、赤の反対側にある色は科学的には purple でなく violet とする。	

blue		青
英語らしい音を出すコツ	b に続く l は意識して舌先を上歯茎に押しつける。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	快晴の空の色。海の色。憂鬱な気分を表すのにも用いる。I'm blue today.	

brown		茶
英語らしい音を出すコツ	b と r を続けて、全体を1音節の語として発音する。練習するには rown, rown, rown とリズムを取りながら唇を閉じて 4 拍めに brown とする。語尾の n は、下の先を上歯の裏につけ「ヌ」と言うぐらいのつもりでしっかり発音する。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	ケンブリッジ英英辞典では、チョコレートや土の色としている。-ow- というつづりが「アウ」と発音されるのは、town, down, now, cow などの例がある。動詞の know は例外。	

black		黒
英語らしい音を出すコツ	b と l を続けて、全体を1音節の語として発音する。練習するには、舌先を上歯につけ、lack, lack, lack とリズムを取り、4 拍目に唇を閉じて black とする。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	最も暗い色。闇夜の色。形容詞としては、black coffee はミルクやクリームを入れないコーヒー（砂糖を入れてもよい）だが、black tea は紅茶のこと。名詞として black が特定の人種を指すこともあるが、肌の色を話題にされることを好まない人たちがいることに留意する。	

指導の手引き 14. 形

circle	丸（図形としては円）
英語らしい音を出すコツ	-ir- は, er や ur と同様に、口をあまり開けずに長く発音する。狭めた唇の間から「サー」にも「サー」にも聞こえる曖昧な音を出す。語尾の -le は舌先を弾くのではなく、舌を上歯の裏に付けて「サークウ」のように、暗い感じの「ウ」に近い音を出す。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	Make a circle. 「輪になってください」 Let's make a circle. と言えば、先生も輪に入ることになるので、使い分けること。また、circle は付き合う人の範囲を表すが、決まったメンバーによる活動をサークルと呼ぶのは和製英語。

cross	十字
英語らしい音を出すコツ	c と r を続けて、全体を1音節の語として発音する。練習するには、ross, ross, ross とリズムを取りながら 4 拍めに cross と言う。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	十字の形を指す。斜めの「バツ印」も cross である。キリスト教文化圏では信仰のシンボルである。

diamond	最初の di- にアクセント。ひし形
英語らしい音を出すコツ	-mond の o はアクセントがないので、軽く、「モン」でも「マン」でもない曖昧な音として発音する。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	ひし形。宝石のダイヤモンド。トランプの印のひとつ。「ダイヤの7」は the seven of diamonds と言う。

heart	ハート
英語らしい音を出すコツ	口を大きく開けて「ハート」と発音する。語尾の t は舌先を歯の裏に当てて止める。口が十分に開かないと hurt 「痛む」と誤解される。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	ハートの形。心臓や心のことでもある。トランプの印のひとつ。「ハートのクイーン」は the queen of hearts と言う。

rectangle	最初の re- にアクセント。長方形
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)レクタンクウ」と発音すると英語らしくなる。中央の a は、hat や bag の a と同様の音。語尾の -le は舌先を弾くのではなく g の直後に舌を上歯の裏に付けて、暗い感じの「ウ」に近い音を出す。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	rect- はラテン語の「正しい」に由来する。正方形も長方形の一種だが、正方形には square という語を用いる。angle は角。ちなみに「辺」は side。

square	正方形
英語らしい音を出すコツ	「ス・ク…」ではなく、1音節語であることを意識して、quare の前に s が付いただけになるように発音する。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	直角は right angle と言う。A square has four right angles. 「正方形には4つの直角がある」

star	星
英語らしい音を出すコツ	「ス・タ・ア」ではなく、1音節語であることを意識して、tar の前に s が付いただけになるように発音する。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	星、または星形のもの。5つ以上の角があるもの。ちなみにオーストラリアの国旗の大きな星は角が7つある。

triangle	最初の tri- にアクセント。三角形
英語らしい音を出すコツ	中央の a は、hat や bag の a と同様の、「エ」と「ア」の中間の音。語尾の -le は舌先を弾くのではなく g の直後に舌を上歯の裏に付けて、暗い感じの「ウ」に近い音を出す。
文法的な注意事項	数えられる名詞。
文化的な情報、応用表現など	triangle の tri- は3を意味するギリシャ語から。正三角形は equilateral triangle と呼ぶ。equi- は「等しい」、lateral は「側面の」を意味する。

指導の手引き 15. 朝・昼・夜

morning	最初の mor- にアクセント。	午前、朝
英語らしい音を出すコツ	最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	一般的には「日の出 (sunrise) から正午 (noon) まで」が morning である。日の出の瞬間も morning と呼ぶし、時刻を話題にするときには深夜0時から正午まで。It is two o'clock in the morning. と言えば未明の時刻である。	

afternoon	-noon にアクセント。	午後
英語らしい音を出すコツ	-oo- は唇をしっかりと突き出して発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	一般的には「正午 (noon) から日没 (sunset) まで」が afternoon である。時刻を話題にするときには、正午から夜の0時になるまでを afternoon とする。	

night		夜
英語らしい音を出すコツ	最後の t は舌先を上歯の裏に付けて止める。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日没後の、普通、人が活動しない時刻を指す。外出や社交のための「夜」は、evening と呼び、night と区別する。なお、midnight は漠然とした遅い時刻ではなく、0時ちょうどを指す語。	

breakfast	最初の break にアクセント。	朝食
英語らしい音を出すコツ	「ファースト」と伸ばさず、短く「ファスト」。この語尾の t も止める音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の辞書には、「一日の最初の食事として、朝にとるもの」と定義している。	

lunch		昼食
英語らしい音を出すコツ	語頭の l は、舌先を上歯の裏にしっかりと付けて発音する。母音の u は、bus や cup の u と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」である。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	一日の真ん中でとる食事のことである。休日の、朝食・昼食兼用の食事は blunch と呼ぶ。(branch「枝」との発音の違いに注意)	

dinner	最初の di- にアクセント。	夕食
英語らしい音を出すコツ	語尾をあまり長くはつきり発音せず、むしろ「ディナ」程度でよい。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏では、一日の食事のうちで主となるものを言う。社交上のフォーマルな食事でも dinner である。たいていは夕食だが、英国では、昼間の食事を dinner と呼び、午後4時ごろに tea と呼ぶ軽食をとる。また、家庭によっては夕食も tea と呼ぶ。さらに遅い時刻に夕食をとるときには supper と呼ぶ。	

指導の手引き 16. 曜日

Monday	最初の Mon- にアクセント。	月曜日
英語らしい音を出すコツ	Mon- の母音は money の o と同じように、口の中央で発音する明るい「ア」である。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	Mon- は moon であり、天体の月にちなむ。英語や欧米の諸言語でも同様。	

Tuesday	最初の Tues- にアクセント。	火曜日
英語らしい音を出すコツ	「チュー」にならないよう、「テュー」としっかり発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	古代ラテン語では「軍神 Mars (マルス、マーズ) の日」だったが、ゲルマンの言語に取り入れられるときに、ゲルマン神話の軍神 Tiu (ティウ) に置き換えられ、Tuesday になった。日本や韓国で用いる「火曜」は古代中国の「五行説」によるもので、太陽系の火星という名前とも対応する。火星は英語で Mars である。	

Wednesday	最初の Wednes- にアクセント。	水曜日
英語らしい音を出すコツ	最初の w は唇をしっかり丸める。d と 2 つ目の e は発音されないで「ウエンズデイ」と言う。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	古代ラテン語では、旅人や商人を守護する神 Mercury (メルクリウス、マーキュリー) の日だったが、ゲルマンの言語に取り入れられるときに、ゲルマン神話の主神 Ordín (オーディン、またはウォーダン) に置き換えられ Wednesday になった。日本や韓国で用いる「水曜」は古代中国の「五行説」によるもので、太陽系の水星という名前も対応する。水星は英語で Mercury である。	

Thursday	最初の Thurs- にアクセント。	木曜日
英語らしい音を出すコツ	Th- は舌先を上下の歯に挟んで発音する。ur- は口をあまり開かず、「アー」にも「ウー」にも聞こえる曖昧な音を発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	Thur- は北欧やゲルマン人の神話の雷神 Thor (トール、ソー) に由来する。日本や韓国で用いる「木曜」は古代中国の「五行説」によるもので、太陽系の木星という名前とも対応している。木星は英語で Jupiter (ジュピター) であり、ローマ神話の最高神であり雷神でもある Jupiter にちなむ。	

Friday	最初の Fri- にアクセント。	金曜日
英語らしい音を出すコツ	Fri の r は舌先が歯に触れない。舌先を歯に当てると fly (飛ぶ) になってしまうので注意する。i は ai と発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	Fri- は北欧やゲルマン人の神話の Ordín (オーディン) の妻、愛と結婚の女神 Frigg (フリガ) にちなむ。日本や韓国で用いる「金曜」は古代中国の「五行説」によるもので、太陽系の金星という名前とも対応している。英語で金星は Venus (ヴィーナス) であり、ローマ神話の愛の女神 Venus にちなむ。	

Saturday	最初の Sat- にアクセント。	土曜日
英語らしい音を出すコツ	-tur- は口をあまり開かず、「ター」にも「トウー」にも聞こえる曖昧な音を発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	Saturn (土星) の日を意味する。土星は、古代ローマ神話の農業神サトゥルヌスの星である。なお Saturn は Satan (セイトウン・キリスト教での「悪魔」) とは別の語であり、語源的にも関係がない。	

Sunday	最初の Sun- にアクセント。	日曜日
英語らしい音を出すコツ	Sun- の u は、bus や cup の u と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」である。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	日本のカレンダーでは週の初めだが、欧米では weekend との意識がありカレンダーの右端に来る。	

指導の手引き 17. 月(1)

January	最初の Jan- にアクセント。	1月
英語らしい音を出すコツ	語尾の -ary を -aly にしないために、舌先が歯の裏に触れないように注意する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	ローマ神話の、始まりと終わりをつかさどる神ヤヌス (Janus) にちなむ。過去と未来を見渡す二つの顔を持つ神である。January は、16世紀に定められたグレゴリオ暦から一年の最初の月となった。	

February	最初の Feb- にアクセント。	2月
英語らしい音を出すコツ	最初の r を落として「フェブアリ」または「フェビュアリ」と言う。語尾は、ary を -aly にしないために、舌先が歯の裏に触れないように注意する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	古代ローマで2月に行われた儀式の名前にちなむ。bのあとのrの発音が次に来るuの音と似ているために、rが脱落する。多くの言語によく起こる音変化の現象である。しかし、つづりどおり丁寧に読もうと意識して、rを発音して「フェブルアリ」と言う人も多い。	

March		3月
英語らしい音を出すコツ	-ar- は口をはっきり開ける。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	ローマ神話の軍神マルス (Mars) にちなむ。	

April	最初の A- にアクセント。	4月
英語らしい音を出すコツ	語の後半が「プ・リ・ル」とならないよう、-pril を1音節として「エイプウ」のリズムになるように発音する。rとlの違いを意識し、間のiはあまり口を開かずに発音するか、しなくてもよい。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	語源ははっきりしないが、ギリシャ神話のアフロディティ (Aphrodite、ローマ神話のビーナスに相当する) との関連を指摘する研究者があり、一般にはラテン語の「開く」と関連づける節もあるので、花や草木の開くことにつながる名前だとされる。	

May		5月
英語らしい音を出すコツ	-ay は長めに「エーィ」と発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	ローマ神話の大地・豊穡の女神マイアスにちなむ。ヨーロッパやアメリカでは春の最後の月、イギリスでは夏の最初の月として受け止められている。	

June		6月
英語らしい音を出すコツ	-u- は唇をしっかりと突き出して発音する。最後の n も、舌先を上歯の裏に押し当ててしっかりと発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	ローマ神話の女神ユノ (ジュノー) にちなむとされる。ユノのは最高神ユピテル (ジュピター) の妻であり結婚生活をつかさどる。このため、6月の花嫁 June bride は幸せになると言われ	

指導の手引き 17. 月(2)

July	語尾の -ly にアクセント。	7月
英語らしい音を出すコツ	-u- は唇をしっかりと突き出して発音する。語尾の -ly を -ry にしないために、舌先が歯の裏にしっかりと触れるように注意する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	古代ローマの政治家ユリウス・カエサル（ジュリアス・シーザー）が、それまでの暦が太陰暦であったのを改め、太陽暦（ユリウス暦）を採用した。その際、彼をたたえるため、彼の誕生月をこのように命名した。	

August	最初の Au- にアクセント。	8月
英語らしい音を出すコツ	最初の Au-は「ア」を発音するように口を開けたまま「オ」の音を出す。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	ユリウスの養子でローマ帝国初代皇帝になったアウグストゥス（オーガスタス）が、「ユリウスの月」の次の月に自分の名前を付けた。	

September	真ん中の -tem- にアクセント。	9月
英語らしい音を出すコツ	Sep·tem·ber と、3拍で言うようにする。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	「7番目の月」の意味。ユリウス暦以前の古代ローマでは、3月を一年の初めとしていたことの名残り。	

October	真ん中の -to- にアクセント。	10月
英語らしい音を出すコツ	-tou- は唇を丸め「オウ」のように発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	「8番目の月」の意味。ユリウス暦以前の古代ローマでは、3月を一年の初めとしていたことの名残り。8本足のタコは octopus であり、8音階をオクターブと呼ぶが、いずれもギリシャ語の okto（8）が起源である。	

November	真ん中の -vem- にアクセント。	11月
英語らしい音を出すコツ	vは下唇に歯を当てて、bにならないように発音する。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	「9番目の月」の意味。ユリウス暦以前は、3月を一年の初めとしていたことの名残り。	

December	真ん中の -cem- にアクセント。	12月
英語らしい音を出すコツ	mの音を唇を閉じて発音すれば、自然と次のbにつながっていく。	
文法的な注意事項	人名や地名と同様、固有名詞として扱う。	
文化的な情報、応用表現など	「10番目の月」の意味。ユリウス暦以前は、3月を一年の初めとしていたことの名残り。10つながりで、デシリットル（10分の1リットル）という語がある。	

指導の手引き 18. 季節

spring	春
英語らしい音を出すコツ	sprをひとかたまりの子音として発音し、間に母音を入れないようにする。リズムカルに、ring, pring, spring と繰り返し言って練習する。
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、aを付けたり複数形にしたりせずに使うことが普通。曜日や月の名前のように固有名詞だと考える母語話者もいる。
文化的な情報、応用表現など	動詞の spring が「跳ねる、飛び出す、湧き出る」の意味であるように、あらゆる命が新しく生まれ出る季節という意味だと考えられている。

summer	最初の sum- にアクセント。夏
英語らしい音を出すコツ	Sum- のuは、bus や cup の u と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」である。
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、aを付けたり複数形にしたりせずに使うことが普通。曜日や月の名前のように固有名詞だと考える母語話者もいる。
文化的な情報、応用表現など	ヨーロッパの多くの古代語で「夏」を意味する同様の語がある。遡れば古代インドのサンスクリット語の「季節」を表す sama に行き着くとされている。

autumn / fall	最初の au- にアクセント。秋
英語らしい音を出すコツ	最初の au-は「ア」を発音するように口を開けたまま「オ」の音を出す。2つ目のuはあまり口を開かずに発音するか、しなくてもよい。語尾のnは発音しない。Fall は、下唇に歯を当ててfを発音し、語尾のlは舌先を弾くのではなく gの直後に舌を上歯の裏に付けて、暗い感じの「ウ」に近い音を出す。
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、aを付けたり複数形にしたりせずに使うことが普通。曜日や月の名前のように固有名詞だと考える母語話者もいる。
文化的な情報、応用表現など	古代ラテン語に同様の語があるが、その起源は不明。アメリカ英語では fall を使うことが多い。Fallは「落ちる」の意味から「葉の落ちる季節」になった。

winter	最初の win- にアクセント。冬
英語らしい音を出すコツ	最初の w は唇をしっかり丸める。
文法的な注意事項	数えられる名詞だが、aを付けたり複数形にしたりせずに使うことが普通。曜日や月の名前のように固有名詞だと考える母語話者もいる。
文化的な情報、応用表現など	ヨーロッパの多くの古代語で「冬」を意味する同様の語がある。もともとは「濡れた季節」を意味したと言われる。

指導の手引き 19. 動物(1)

cat		ネコ
英語らしい音を出すコツ	日本語の外来語としては「キ」に拗音（ちいさい「ゃ」）を添えて「キャット」と表記するが、英語としては、この a は bat や hat と同じ、「エ」と「ア」の中間の音なので、「 ケ アト」のつもりで発音するのが原音に近い。なお、最後の t は舌先を上歯の裏につけて止めるので、日本人は促音の「ッ」があるように誤解してきた。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日本では「犬猿の仲」という言い方があるが、英語圏では、イヌとネコが仲の悪い同士の象徴である。雨の土砂降りを It rains cats and dogs. というほど。	

dog		イヌ
英語らしい音を出すコツ	do は「ダ」と言うつもりで開いた口のまま「ド」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	Dog は忠実なペットとしてのイメージが強い。	

mouse		ネズミ
英語らしい音を出すコツ	語尾の s のあとに唇が丸まっていないように注意する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は mice 。	
文化的な情報、応用表現など	家ネズミは mouse, 野ネズミは rat と呼ぶ。パソコンの マウスは尾の長いネズミのようなので、そう呼ばれる。	

cow		ウシ
英語らしい音を出すコツ	owの発音は town, now, down の ow と同じ「アウ」である。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	雌牛のこと。雄牛は bull と呼ぶ。食肉になったものは beef.	

chicken	最初の chi- にアクセント。	ニワトリ
英語らしい音を出すコツ	発音は日本語の外来語とほとんど同じである。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。食肉としては数えられない名詞	
文化的な情報、応用表現など	ひよこをペットとして飼っている人なら I like chickens というが、I like chicken. と言えば「鶏肉が好き」の意味になる。	

pig		ブタ
英語らしい音を出すコツ	最初の p は息をためて思い切り強く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	食肉になったものは pork と呼び、無冠詞で複数形も使わない。	

指導の手引き 19. 動物(2)

koara	-a- にアクセント。	コアラ
英語らしい音を出すコツ	最初の ko- は唇を丸めて「コウ」と発音し、次の a を強く発音する。語尾の -la は l の音を意識して舌先を上歯に付けて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	オーストラリア (Australia : オーストレイリア) に特有の有袋類 (marsupial : マースピアル) Koaras sleep in the tree. のように言えば小学生にも理解できるだろう。	

bear		クマ
英語らしい音を出すコツ	最初の b は息をためて思い切り強く発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	最も大きなものは polar bear ホッキョクグマ、マレーグマが最小。日本にはツキノワグマとヒグマ。	

panda	最初の pan- にアクセント。	パンダ
英語らしい音を出すコツ	pan- の a は、cat や hat と同じ、「エ」と「ア」の中間の音なので、「ペアンダ」のつもりで発音するのが原音に近い。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	写真は giant panda である。Giant panda は近年のDNA分析の結果、クマ科として分類されるようになった。	

gorilla	真ん中の -ril- にアクセント。	ゴリラ
英語らしい音を出すコツ	r と l の使い分けに注意する。Rは、舌先をどこにも触れず、l は舌先を上歯の裏にしっかり付ける。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	西アフリカ (West Africa 最初のAにアクセント) に生息する類人猿 (ape : 尾がない) 。尾のあるサル (monkey) とは区別される。	

lion	最初の li- にアクセント。	ライオン
英語らしい音を出すコツ	最初の l は、舌先を上歯の裏にしっかり付けて発音する。「ライアン」に近い音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	主にアフリカのサハラ以南の草原に生息する。雄はたてがみ (mane メイン) を持つ。ライオンの群れを pride (プライド) と呼ぶ。	

tiger	最初の ti - にアクセント。	トラ
英語らしい音を出すコツ	語尾を「ガー」と長く伸ばしすぎないこと。「タイグア」のように聞こえて構わない。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	シベリア (Siberia サイベリア) からアジア (Asia エイジア) にかけて生息する。ネコ科最大の動物。	

elephant	最初の e- にアクセント。	ゾウ
英語らしい音を出すコツ	l は舌先を上歯の裏にしっかり付ける。-ph は f の音なので、上歯を下唇に当てる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	ゾウの牙は tusk という。鼻は trunk だが、nose と言っても理解される。	

指導の手引き 19. 動物 (3)

monkey	最初の mon- にアクセント。	サル
英語らしい音を出すコツ	この o は bus や cup と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」なので、「モンキー」ではなく「マンキィ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	尾のあるサルを指す。尾のないのは類人猿 (ape) である。	

sheep		ヒツジ
英語らしい音を出すコツ	ee を、口の筋肉をしっかりと緊張させて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。ただし複数いても two sheep, three sheep と、-s を付けない。	
文化的な情報、応用表現など	sheep はおとなしい動物として知られている。ship 「船」と間違われたいためには、ee を発音するときには口を思い切り緊張させる。「いい湯だね」の「いい」と同じ音。	

horse		ウマ
英語らしい音を出すコツ	h の音をしっかりと出すこと。-or- は長めに発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。複数形は horses (ホースイズ)。	
文化的な情報、応用表現など	水をまく道具は hose であり、o は唇を丸めて「ホウズ」と発音するので、区別に注意。	

rabbit	最初の rab- にアクセント。	ウサギ
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)ラビト」と発音すると英語らしくなる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	野ウサギは hare という。髪の毛 hair と同じ発音である。	

snake		ヘビ
英語らしい音を出すコツ	s と n を一緒に発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	

frog		カエル
英語らしい音を出すコツ	下唇をかんで f の音を出すと同時に -rog を発音すると英語らしくなる。o は「ア」を言うつもりで口を開き「オ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	国語の教材にも採用されている「がまくんとかえるくん」は原題を Frog and Toad という。Toad はヒキガエル (ガマガエル)。このタイトルは英語と日本語で順序が逆になっている。	

spider	spi の i にアクセント。	クモ
英語らしい音を出すコツ	語尾を「ダー」と長く伸ばしすぎないこと。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	クモの巣を web と呼ぶ。インターネットを web と呼ぶのも、クモの巣のように世界に張り巡らされているからである。	

指導の手引き 20. 自然

beach		はま
英語らしい音を出すコツ	ea を、口の筋肉をしっかりと緊張させて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。I want to go to the beach. と the を付けて言うのが普通。	
文化的な情報、応用表現など	特に砂浜を beach と呼ぶ。海水浴に行くのは beach であり、go to sea と冠詞の the なし で言えば「船乗りになる」の意味。	

flower	-ow- にアクセント。	花
英語らしい音を出すコツ	「フラワー」ではなく、下唇をかんですぐ「ラウア」と言う。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	草に咲く花を flower という。木に咲く花は blossom (ブラッサム) である。	

lake	最初の la- にアクセント。	湖
英語らしい音を出すコツ	最初の l は、舌先を上歯の裏にしっかり付けて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

mountain	最初の moun- にアクセント。	山
英語らしい音を出すコツ	人によっては語尾を「ティン」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

rainbow	最初の rain- にアクセント。	にじ
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)レイン ボウ」と発音すると英語らしくなる。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	雨 (rain) のあとに見える弓 (bow) が語源。	

river	最初の ri- にアクセント。	川
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)リヴァ」と 発音すると英語らしくなる。v の音は下唇をかんで発音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など		

sea		海
英語らしい音を出すコツ	she (彼女) との違いを意識して発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。the を付けることが多い。	
文化的な情報、応用表現など	海水浴で「海に行く」というときには go to the beach というのが普通である。go to sea と冠詞の the なしで言えば「船乗りになる」の意味。ただし beach は砂浜なので「学校のプー ルでなく海で泳ぎたい」と言いたいときには、I want to swim in the sea, not in the school pool. という。	

tree		木
英語らしい音を出すコツ	「ツリー」にならないよう、舌先を上歯に当て t の音を出した直後に ree を発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	校庭に植えてある木々や並木は trees、校舎の裏山の林や村の鎮守の森は wood、forest は もっと大規模な森林である。	

指導の手引き 21. 家族・友だち

grandfather	最初の grand- にアクセント。	祖父
英語らしい音を出すコツ	grand の r が l でないことを意識し、舌先が歯に触れないよう注意する。-father の a は「ファー」と長く伸ばして発音する。-th は舌先を両方の歯でかんで発音する。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	granpa は幼児語「おじいちゃん」。ちなみに孫は、男の子なら grandson 。Son は「息子」、sun 「太陽」と同じ発音。なお、おとぎ話に出てくる「おじいさん」は、自分の祖父ではないので an old man と言う。	

grandmother	最初の grand- にアクセント。	祖母
英語らしい音を出すコツ	grand の r が l でないことを意識し、舌先が歯に触れないよう注意する。-mother の o は Monday や money や monkey と同じ、口の中央で発音する明るい a である。-th は舌先を両方の歯でかんで発音する。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	granny は幼児語「おばあちゃん」。ちなみに孫は、女の子なら granddaughter 。Daughter (ドータ) は「娘」。なお、おとぎ話に出てくる「おばあさん」は、自分の祖父ではないので an old woman または the old man's wife と言う。	

father	最初の fa- にアクセント。	父
英語らしい音を出すコツ	father の a は「ファー」と長く伸ばして発音する。-th は舌先を両方の歯でかんで発音する。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	dad, daddy は幼児語。この a は、cat や map と同じ、「エ」の口をして「ア」と発音する。	

mother	最初の mo- にアクセント。	母
英語らしい音を出すコツ	mother の o は Monday や money や monkey と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」である。-th は舌先を両方の歯でかんで発音する。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	mom, mommy は幼児語。この o は、mother のときとは違い、「ア」を言うつもり口の形のまま「オ」を発音する。	

sister	最初の si- にアクセント。	姉/妹
英語らしい音を出すコツ	最初の s は、日本語の「シ」ではなく、sea と同じ「スイ」	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の人は、普段は姉か妹かを区別しない。特に年齢の違いを話題にするのでなければ、my older sister, my younger brother のような言い方はしない。	

brother	最初の bro- にアクセント。	兄/弟
英語らしい音を出すコツ	brother の o は Monday や mother と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」である。-th は舌先を両方の歯でかんで発音する。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の人は、普段は兄か弟かを区別しない。特に年齢の違いを話題にするのでなければ、my older brother, my younger brother のような言い方はしない。	

friends		友だち
英語らしい音を出すコツ	最初の f が日本語の「フ」にならないよう、下唇を上歯でかんで f の音を出してすぐ r につなげる。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	人を紹介するときには He/she is a friend. でよい。He/she is my friend. と言うのは、ほかの人の友人ではなく自分のだと言うような意味になるので、場合により恋人と誤解される。	

boy		男の子
英語らしい音を出すコツ	発音しやすい語。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	

girl		女の子
英語らしい音を出すコツ	lr の発音は、口を口をあまり開かず、「アー」にも「ウー」にも聞こえる曖昧な音を発音する。	
文法的な注意事項	教えられる名詞。	

指導の手引き 22. 体

head		頭
英語らしい音を出すコツ	発音しやすい語。ネイティブスピーカーは強調して ea を長めに発音することもある。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日本語では、眉から上を「頭」と呼ぶが、英語では、あごから上の部分は全て head である。	

face		顔
英語らしい音を出すコツ	f は下唇を上歯でかんで発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	face は head の一部、前に向いた、目や鼻や口のある部分。	

ear		耳
英語らしい音を出すコツ	「イヤー」ではなく「イエア」	
文法的な注意事項	数えられる名詞。両耳は ears 。	

eye		目
英語らしい音を出すコツ	「ア」を少し長めに「イ」は軽めに、「アーイ」。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。両目は eyes 。	

nose		鼻
英語らしい音を出すコツ	nose の o は、唇を丸めて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	

teeth		歯
英語らしい音を出すコツ	語尾の -th は舌先を上下の歯に挟んで発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。1本なら tooth、複数は teeth。	

mouth		口
英語らしい音を出すコツ	語尾の -th は舌先を上下の歯に挟んで発音する。この音がいいかげんだと、mouse (ネズミ) に聞こえてしまう。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	

shoulder	最初の shoul- にアクセント。	肩
英語らしい音を出すコツ	「ショルダー」ではなく、唇を丸めて「ショウルダァ」と発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。両肩なら shoulders 。	

hand		手
英語らしい音を出すコツ	hand の a は、cat や panda と同じ「エ」と「ア」の中間の音なので、「ヘアンド」のつもりで発音するのが原音に近い。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。両手なら hands 。	
文化的な情報、応用表現など	手の指は finger だが、親指だけは thumb (語尾の b は発音しない) と呼ぶ。	

leg		脚(足)
英語らしい音を出すコツ	最初の l は、舌先を上歯の裏にしっかり付けて発音する。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。両足なら legs 。	
文化的な情報、応用表現など	くるぶしまだが leg、その下は foot (複数形は feet)	

knee		ひざ
英語らしい音を出すコツ	k は発音しない。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。両膝なら knees 。	
文化的な情報、応用表現など	knee は関節のあるひざのこと。赤ちゃんを乗せたりする「ひざの上」は lap と言う。lap は複数にしない。	

toe		つま先
英語らしい音を出すコツ	oe の発音は、唇を丸めて。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。足の指一本が toe なので、複数は toes 。	
文化的な情報、応用表現など	足の指は finger とは呼ばない。バレダンサーの靴が toe shoes と呼ばれるのはつま先で立つように作られているからである。	

指導の手引き 23. 行事

New Year's Day	3語に均等にアクセント。	元日
英語らしい音を出すコツ	year が ear にならないよう、yの音を確実に出す。	
文法的な注意事項	年中行事は固有名詞として扱う。冠詞はらず複数形にもしない。	
文化的な情報、応用表現など	東京、浅草寺の初詣 (the first visit to a temple / to a shrine)。雷門 (Kaminarimon Gate) から本堂 (the Main Hall) へ向かう仲見世通り (Nakamise-dori Street) の様子。	

Snow Festival	Snow と Fes- に均等にアクセント。	雪祭り
英語らしい音を出すコツ	snow の ow は長く伸ばさずに唇を丸める。festival の語尾は、vで下唇をかんだあとすぐに続けて l を発音するので、「ヴァル」でなく「ヴウル」に聞こえてよい。語尾の l は舌先が上の歯の裏に押し当てられ「ウ」のように聞こえる暗い音。	
文法的な注意事項	各地に雪祭りがあるので、数えられる名詞。自分の地元のものには the Snow Festival と the を付けて言う。	
文化的な情報、応用表現など	写真は秋田県横手市雪まつり (the Snow Festival in Yokote, Akita Prefecture) 「かまくら」は snow hut、または igloo (hut は「小屋」、igloo は北極圏に住むイヌイットが雪のブロックで作る家のこと)。後ろに見えるのは横手城 (Yokote Castle)	

Dolls' Festival	Doll's と Fes- に均等にアクセント。	ひな祭り
英語らしい音を出すコツ	Doll は「ダー」と言うつもりで口を開き「ドー」と発音する。語尾の l は、舌先が上の歯の裏に押し当てられ「ウ」のように聞こえる暗い音。festival の語尾は、vで下唇をかんだあとすぐに続けて l を発音するので、「ヴァル」でなく「ヴウル」に聞こえてよい。語尾の l は doll の l と同じ暗い音。	
文法的な注意事項	年中行事は固有名詞として扱う。冠詞はらず複数形にもしない。	
文化的な情報、応用表現など	ひな人形は hina dolls、段飾りは a hina doll set、写真の内裏びなは the royal couple、つまり天皇・皇后をイメージした人形である。	

Children's Day	Child- と Day に均等にアクセント。	こどもの日
英語らしい音を出すコツ	children の l と d は、どちらも上の歯の裏に舌を付けて発音するので、人によって d がほとんど聞こえない。	
文法的な注意事項	年中行事は固有名詞として扱う。冠詞はらず複数形にもしない。	
文化的な情報、応用表現など	こいのぼりは carp streams、stream の ea は street の ee と同じ音。写真はかぶと。ただの helmet では外国人にはイメージが湧きにくいので、samurai helmet と説明するのがよい。	

Star Festival	Star と Fes- に均等にアクセント。	七夕
英語らしい音を出すコツ	star の tar をはっきりと発音する。festival の語尾は、vで下唇をかんだあとすぐに続けて l を発音するので、「ヴァル」でなく「ヴウル」に聞こえてよい。語尾の l は舌先が上の歯の裏に押し当てられ「ウ」のように聞こえる暗い音。	
文法的な注意事項	年中行事は固有名詞として扱う。冠詞はらず複数形にもしない。	
文化的な情報、応用表現など	織姫、彦星はそれぞれ、Vega (ヴェガ) と Altair (アルタイア) である。中国の民話 (Chinese folktale フォウクテイル) によれば、二人は年に一度会える (They can meet only once a year)。もちろん銀河 (the Galaxy または Milky Way) の彼方の星々が近づくはずはない。	

firework	最初の fire にアクセント。	花火
英語らしい音を出すコツ	「ファイヤー」の用に語尾まで力を入れるのではなく、「ファイア」と短く発音し、-work は口をあまり広く開けずに発音する。「ウオーク」にならないように注意。	
文法的な注意事項	firework は花火そのものを指す数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	花火大会は firework display と呼ぶ。Display を付けると、各地に花火大会があるので、数えられる名詞になる。有名で大がかりな大会は firework festival と呼ぶこともできる。	

festival	最初の fe- にアクセント。	祭り
英語らしい音を出すコツ	festival の語尾は、vで下唇をかんだあとすぐに続けて l を発音するので、「ヴァル」でなく「ヴウル」に聞こえてよい。語尾の l は舌先が上の歯の裏に押し当てられ「ウ」のように聞こえる暗い音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	祭り一般を指す。自分の地元のもの話題にするときには the を付ける。この写真はユネスコ無形文化遺産の、熊本県の八代妙見祭。亀蛇 (Kida, the turtle-snake) は妙見宮 (Myoken Shrine) の守り神 (the guardian) である。	

New Year's Eve	3語に均等にアクセント。	大みそか
英語らしい音を出すコツ	Eve は「イブ」ではなく「イーヴ」。	
文法的な注意事項	年中行事は固有名詞として扱う。冠詞はらず複数形にもしない。	
文化的な情報、応用表現など	除夜の鐘は New Year's Eve Bells でよい。All temple bells in Japan toll 108 times. (toll: 動詞: 鐘が鳴る)	

指導の手引き 24. 趣味・遊び(1)

playing	最初の play- にアクセント。	遊び
英語らしい音を出すコツ	「プレイング」ではなく「プレイ」の y と ing の i を発音する。最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	小学生ぐらいまでの「遊び」を指す。日本では、ティーンエイジャーになっても「仲間と遊ぶ」と言うが、英語圏では子ども以外は何をするかを具体的に言う。	

jogging	最初の jog- にアクセント。	ジョギング
英語らしい音を出すコツ	jo- は「ジャ」を言うつもりで口を開き「ジョ」と発音する。最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「運動 (exercise) としてゆっくり (slowly) 同じ速度 (regular speed) で走る (run) こと」と英英辞典では定義している。I want to go jogging 「私はジョギングに行きたい」	

camping	最初の camp- にアクセント。	キャンプ
英語らしい音を出すコツ	日本語の外来語としては「キ」に拗音(ちいさい「ゃ」)を添えて「キャンピング」と表記するが、英語としては、この a は cat や hat と同じ、「エ」と「ア」の中間の音なので、「ケムピング」のつもりで発音するのが原音に近い。最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「休暇 (holiday) にテント (tent) に寝泊まりする (stay) こと」と英英辞典では定義する。I went camping on holiday and stayed in a tent. 「休みにキャンプへ行きテントに泊まった」	

hiking	最初の hik- にアクセント。	ハイキング
英語らしい音を出すコツ	最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「ハイキングに行く」は go hiking または go on a hike. hiking の目的は歩くことである。よく picnic と混同されるが、picnic は屋外での食事のこと。	

fishing	最初の fish- にアクセント。	釣り
英語らしい音を出すコツ	語頭の f は下唇をかんで発音する。最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「釣りに行く」は go fishing と言う。	

reading	最初の read- にアクセント。	読書
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)リー…」と発音すると英語らしくなる。最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日本では、読書も趣味のうちと考える人がいるが、英語圏では、趣味 (hobby) とは、何かを収集 (collect) したり、何かを作り出したり (create) する活動を hobby と呼ぶ。reading はただ、I like reading. とする。ちなみに「寝るのが趣味」というのも英語では意味が理解されにくい。	

shopping	最初の shop- にアクセント。	買い物
英語らしい音を出すコツ	shop の o は「ア」を言うつもりで口を開き「オ」と発音する。最後の -ng は「ング」ではなく、鼻へ息を抜く音。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「買い物が好き」I like shopping. 「銀座で買い物をした」I went shopping in Ginza. などと言う。なお、shopping も趣味に含めない。	

指導の手引き 24. 趣味・遊び(2)

tag		おにごっこ
英語らしい音を出すコツ	tag の a は、cat や bag と同じ「エ」と「ア」の中間の音なので、「テァグ」のつもりで発音するのが原音に近い。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	「鬼ごっこをする」は play tag, 「お店屋さんごっこ」は play shop (英) または play store (米), 「かくれんぼ」は hide-and-see (ハイドンスィーク)。	

jump rope	最初の jump- にアクセント。	縄とび
英語らしい音を出すコツ	jump の u は、bus や cup の u と同じ、口の中央で発音する明るい「ア」である。Rope の o は唇を丸めて発音する。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	jump rope は「縄とび」という活動でもあり、また縄とびに使う「縄」も指す。	

unicycle	語頭の u (you のように発音) にアクセント。	一輪車
英語らしい音を出すコツ	-cycle は「シ」ではなく「スイ」になるように注意する。語尾の cle の le は、ほかの語尾の le と同様、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になる。「ユーナスイクウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	活動や運動なので、数えられない名詞。	
文化的な情報、応用表現など	uni- はラテン語で 1 を意味する語に由来する。ちなみに bicycle の bi もラテン語の 2 を表す語から来ている。三輪車 (tricycle) の tri- はギリシャ語から。	

ball		ボール
英語らしい音を出すコツ	Ball の a は「アー」と言うつもりで口を開き「オー」と発音する。語尾の ll は、舌先が上の歯の裏に押し当てられ「ウ」のように聞こえる暗い音。ball の語尾は doll の l と同じ、舌先を上歯の裏に当てて「ウ」のように聞こえる暗い音。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	日本では、子どものボール遊びは写真のような丸いボール (球: sphere スフィア) が普通だが、アメリカでは、アメリカンフットボール用のボールに似せた楕円の (oval オウヴァル) ボールやバスケットボールに似せた子ども用のボールがよく使われる。イギリスやオーストラリア、ニュージーランドではラグビーボールが人気である。	

vacation	-ca- にアクセント。	休み
英語らしい音を出すコツ	下唇をかんで v の音を出す。	
文法的な注意事項	数えられる名詞。	
文化的な情報、応用表現など	vacation は「夏休み」や「冬休み」のような長期の休暇で、イギリスやオーストラリア、ニュージーランドでは、holiday と呼ぶ。例: Christmas holiday. また英米ともに、カレンダーの上の公的な休日を holiday と呼ぶ。	